

## Ⅲ—1 国語科

# 特定の課題に対する調査 教科等別結果の分析と考察

# 1 【系統性】の理解に基づく【連続性】を確保した調査企画の全体像

|      |           |           |      |
|------|-----------|-----------|------|
| 校種   | 小学校       |           |      |
| 学年   | 第3学年      | 第4学年      | 第5学年 |
| 出題範囲 | 小学校第1・2学年 | 小学校第3・4学年 |      |

|           |   |                            |   |                            |
|-----------|---|----------------------------|---|----------------------------|
| A 話す・聞くこと | エ | 大事なことを落とさない                | エ | 中心に気を付けて質問・感想              |
|           |   | ・ B【話聞】 1-1<br>・ B【話聞】 1-2 |   | ・ B【話聞】 1-1<br>・ B【話聞】 1-2 |

|        |   |                             |   |                                 |
|--------|---|-----------------------------|---|---------------------------------|
| B 書くこと | イ | 構成：事柄の順序<br>・ B【書】 5-1      | イ | 構成：段落の役割<br>・ B【書】 5-1          |
|        | ウ | 推敲：間違いに気付き直す<br>・ A【書】 5-2  | ウ | 推敲：間違いを正し、よりよい表現に<br>・ A【書】 5-2 |
|        | エ | 交流：よいところ見付け感想<br>・ S【書】 5-3 | オ | 交流：考えの明確さについて意見<br>・ S【書】 5-3   |

|        |   |  |  |                                |
|--------|---|--|--|--------------------------------|
| C 読むこと | イ   | 時間・事柄の順序<br>・ C【読】(説)3-1                               | イ  | 内容の中心となる語・文<br>・ C【読】(説)3-1    |
|        |   | 内容の大体<br>・ B【読】(説)3-2                                  |  | 段落相互の関係<br>・ B【読】(説)3-2        |
|        | ウ   | 人物の行動、想像を広げ<br>・ C【読】(文)4-1<br>・ B【読】(文)4-2            | ウ  | 事実と意見の関係、<br>・ B【読】(説)3-3      |
|        |   | 場面の移り変わり<br>・ C【読】(文)4-1<br>登場人物の性格を想像<br>・ B【読】(文)4-2 |  | 登場人物の気持ちの変化を想像<br>・ A【読】(文)4-3 |
| エ      | 大事な言葉・文を書抜<br>・ A【読】(説)3-3<br>・ A【読】(文)4-3    | エ  | 要点・細かい点・引用・要約：人物や情景の描写<br>・ A【読】(説)3-4<br>・ A【読】(文)4-4 |                                |
| オ      | 経験と結び付いた思いや考え<br>・ S【読】(説)3-4<br>・ S【読】(文)4-4 | オ  | 自分の考えをもつ<br>・ S【読】(説)3-5<br>・ S【読】(文)4-5               |                                |

|                      |   |                           |   |                             |
|----------------------|---|---------------------------|---|-----------------------------|
| 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | イ | (ウ)意味によるまとめ<br>・ C【言】 2-1 | イ | (オ)性質・役割による類別<br>・ C【言】 2-1 |
|                      |   | (カ)主語・述語<br>・ C【言】 2-2    |   | (キ)修飾語・被修飾語<br>・ C【言】 2-2   |
|                      |   | (オ)句読点<br>・ C【言】 2-3      |   | (カ)辞書で調べる方法<br>・ C【言】 2-3   |
|                      |   |                           |   |                             |

※S～C：設問レベル、【話聞】話す・聞く能力 【書】書く能力、【読】読む能力  
【言】言語についての知識・理解・技能、番号：設問番号、(説)説明的文章、(文)文学的文章

|           |      |         |         |
|-----------|------|---------|---------|
| 小学校       | 中学校  |         |         |
| 第6学年      | 第1学年 | 第2学年    | 第3学年    |
| 小学校第5・6学年 |      | 中学校第1学年 | 中学校第2学年 |

|   |  |   |  |   |  |
|---|--|---|--|---|--|
| エ | 話し手の意図を捉え、自分の意見と比較<br>・ B【話聞】 1-1<br>・ A【話聞】 1-2 | エ | 共通点・相違点の整理<br>・ B【話聞】 1-1<br>・ A【話聞】 1-2 | エ | 論理構成・自分と比較<br>・ B【話聞】 1-1<br>・ A【話聞】 1-2 |
|   |  |   |  |   |  |

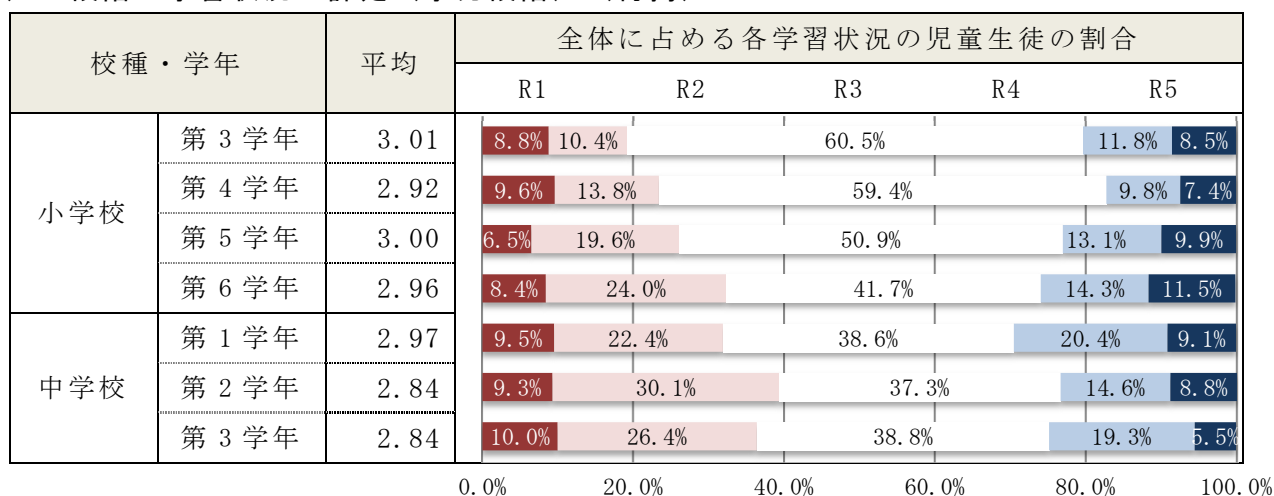
|   |                                  |   |                              |   |                               |
|---|----------------------------------|---|------------------------------|---|-------------------------------|
| イ | 構成:考えを明確にする文章全体の構成<br>・ B【書】 5-1 | イ | 構成:段落の役割<br>・ B【書】 5-1       | ア | 構成:立場、事実や事柄明確に<br>・ B【書】 5-1  |
|   | 推敲:表現の効果<br>・ A【書】 5-2           |   | 推敲:表記や語句の用法、叙述<br>・ A【書】 5-2 |   | エ                             |
| オ | 交流:表現の仕方に着目し助言<br>・ S【書】 5-3     | オ | 交流:題材、材料、根拠<br>・ S【書】 5-3    | エ | 交流:意見、助言、考えを広げる<br>・ S【書】 5-3 |
|   |                                  |   |                              |   |                               |

|   |  |   |   |   |   |
|---|--|---|---|---|---|
| ウ | 内容を的確に押さえ要旨を捉える<br>・ C【読】(説)3-1<br>・ B【読】(説)3-2                | ア | 文脈上の語句の意味<br>・ C【読】(説)3-1                     | ア | 抽象的な概念・心情を表す語句<br>・ C【読】(説)3-1                        |
|   | 事実と意見、感想の関係<br>・ B【読】(説)3-3                                    |   | イ   |   | 中心・付加的な部分、要旨<br>・ B【読】(説)3-2                          |
| エ | 人物の相互関係・心情を捉える<br>・ C【読】(文)4-1<br>・ B【読】(文)4-2<br>・ B【読】(文)4-3 | ウ | 場面の展開、人物の描写<br>・ C【読】(文)4-1<br>・ B【読】(文)4-2   | イ | 人物の言動の意味<br>・ C【読】(文)4-1<br>・ B【読】(文)4-2              |
|   | 優れた叙述について考えをまとめる<br>・ A【読】(文)4-4<br>・ S【読】(文)4-5               |   | ウ   |   | 文章構成・展開、表現の特徴<br>・ A【読】(説)3-4<br>・ A【読】(文)4-3         |
| オ | 考えを広げ深める<br>・ A【読】(説)3-4<br>・ S【読】(説)3-5                       | エ | ものの見方・考え方を広げる<br>・ S【読】(説)3-5<br>・ S【読】(文)4-4 | エ | 構成や展開、表現の仕方について根拠を明確に<br>・ A【読】(説)3-4<br>・ A【読】(文)4-3 |
|   |  |   |   |   |   |

|   |                             |   |                            |   |                              |
|---|-----------------------------|---|----------------------------|---|------------------------------|
| イ | (キ)文や文章の構成<br>・ C【言】 2-2    | イ | (ア)音声の響き・仕組み<br>・ C【言】 2-1 | イ | (イ)同音異義語、多義的意味<br>・ C【言】 2-1 |
|   | (ク)日常よく使われる敬語<br>・ C【言】 2-3 |   | (エ)単語の類別<br>・ C【言】 2-2     |   | (エ)単語の活用<br>・ C【言】 2-2       |
| ウ | (イ)漢字の由来、特質<br>・ C【言】 2-1   |   |                            |   |                              |

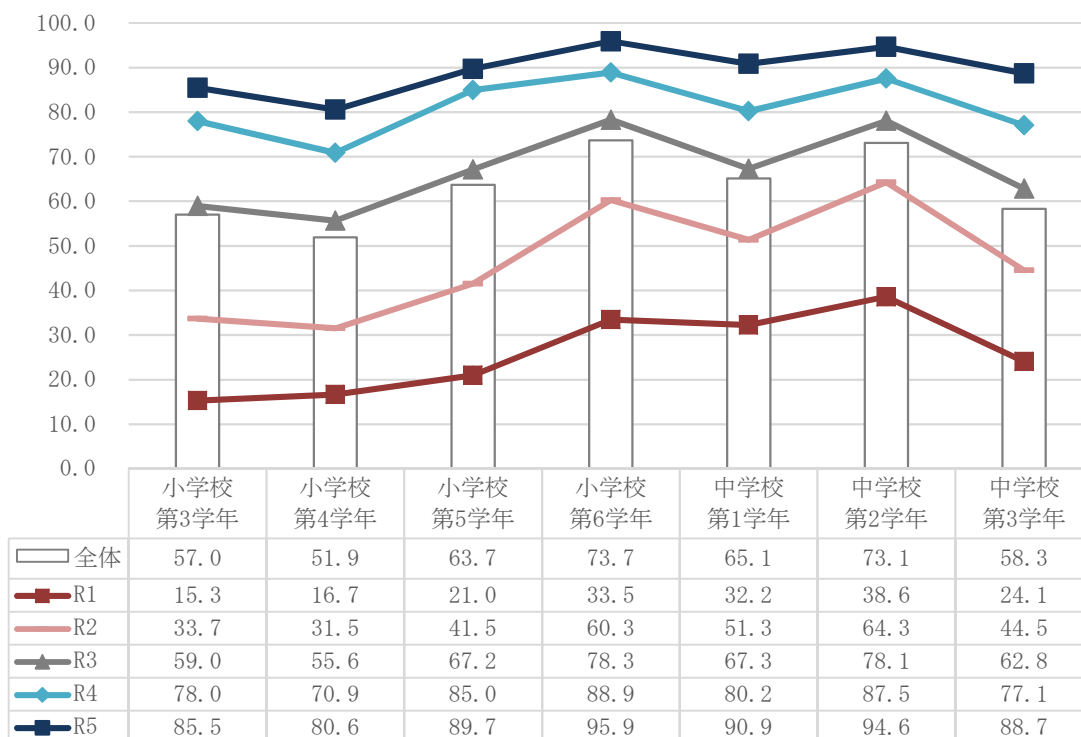
## 2 結果の分析と考察

### (1) 5段階の学習状況の評定（学力段階）（再掲）



※学習指導要領に準拠した調査実施の前学年の学習状況の評定（学力段階）  
 R5 発展的な力が身に付いている      R4 十分な定着がみられる  
 R3 おおむね定着がみられる（最低限の到達目標）  
 R2 特定の内容でつまずきがある      R1 学び残しが多い

### (2) 学習状況の評定（学力段階）ごとの平均正答率（教科全体）（再掲）



## 〔学力段階に関する考察〕

- 「杉並区教育ビジョン 2012 推進計画」の目標 I に準拠すると、中学校第 3 学年における R3 以上の割合はおよそ 63% であり、平成 33 年度の目標値 80% からは 17 ポイント低い状況である。この状況を生徒数に換算すると、杉並区全体では 340 人（学年を 2,000 人とした場合）、1 校あたりではおおむね 15 人を R3（以上）に引き上げることが必要である。
- 学年別にみると、中学校第 2 学年までは学年進行に伴い R1・2 の全体に占める割合が増加している。つまり、学び残しを解消する機会がないままに学年が進み、中学校第 2 学年では 39% の生徒が何らかのつまずき、学び残しを抱えている状態となっている。一方 R4・5 も学年進行にしたがい、ゆるやかに割合が増加している。つまり、R3 の割合が徐々に減っている。
- ◎（概括 1）学年進行に伴うつまずき、学び残しを累積させないためには、全ての児童・生徒に各々の学力・学習状況に応じた指導が必要であることを前提としながらも、R1・2 への重点的な基本的な技能に関する個別指導・支援が必要である。また、学習指導要領に示される指導目標・内容（事項）の【系統性】を構造的且つ明確に理解し、単位時間における課題解決学習の定着を図る。その際、学力段階と意識・実態調査の結果をクロスして関連付け、児童・生徒一人一人を取り巻く環境や意識も十分に把握した上で、学力向上のための手だてを考える必要がある。また、言語活動の【連続性】を十分に確保した指導により、各学年での積み上げを確実に行う必要がある。
- ◎（概括 2）R1・2 と R4・5 の増加傾向にある学習状況の改善は、児童・生徒同士の学び合いを生かし、二人組や小集団、学級集団全体の交流を活性化させることにも資する。また、子ども同士だけでなく、教員や地域の人との【協働】を通じて教育内容と教育環境の充実に努め、児童・生徒の主体的な学びを確保していく必要もある。

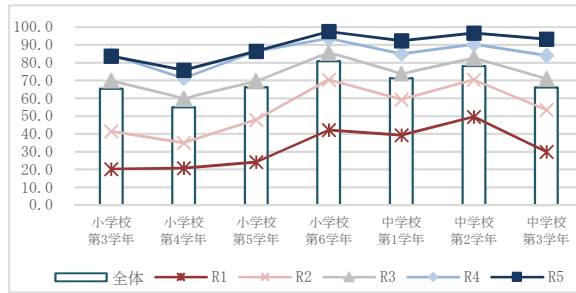
## 〔教科全体の学力段階ごとの平均正答率に関する考察〕

- 小学校第 6 学年と中学校第 2 学年の結果の背景には、活用 S の設問の難易度が、他学年と比較し、各設問が想定するレベルに対し容易であったことがあると考える。学習指導要領の実現状況を適切に把握するためにも、平成 29 年度調査においては、他学年と難易度を統一していく調整が必要になる。
- ◎（概括 1）ほとんどの学年において、R1 に近づくほど段階間の通過率の差が大きくなる。つまずきや学び残しは学年進行に伴い累積していく。当該学年の基礎的・基本的な指導事項を確実に身に付けさせる指導の改善が急務である。特に指導事項にふさわしい言語活動を工夫し、全ての児童・生徒が主体的に活動する授業を構築する中で、つまずきや学び残しを解消したり新たに累積させたりしない指導が必要である。
- ◎（概括 2）授業の中ではペアやグループ学習など協働的な学習を取り入れ、一人一人の学習活動を保証し、充実感をもたせる必要がある。一人一人が主役となるペア学習を取り入れることは、教師主導の一斉指導では学習の主体となる機会を得ることが難しい R2 や 3 をはじめ、全ての児童・生徒が活躍する手だてにもなる。

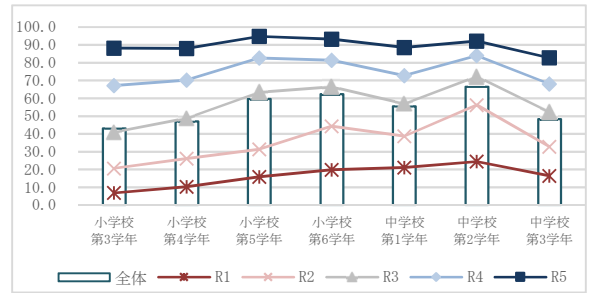
(3) 基礎・活用別、観点別、領域別の学力段階ごとの平均正答率

ア 基礎・活用別

① 基礎

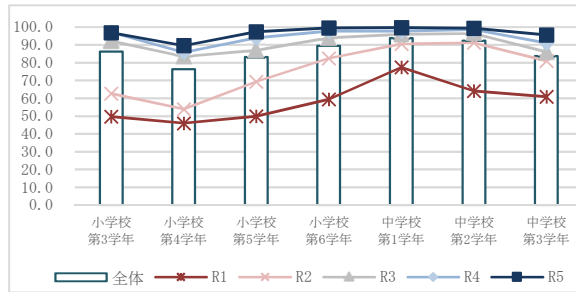


② 活用

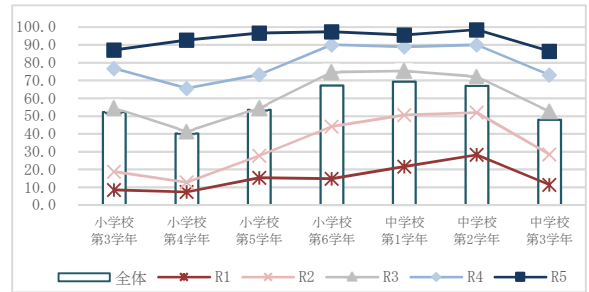


イ 観点別

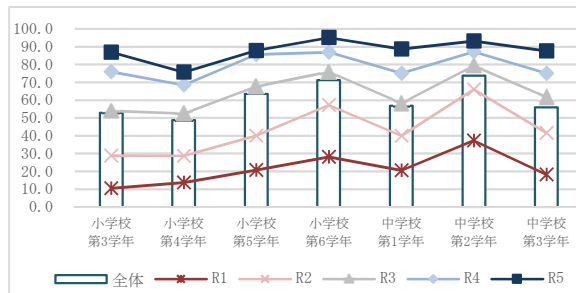
① 話す・聞く能力



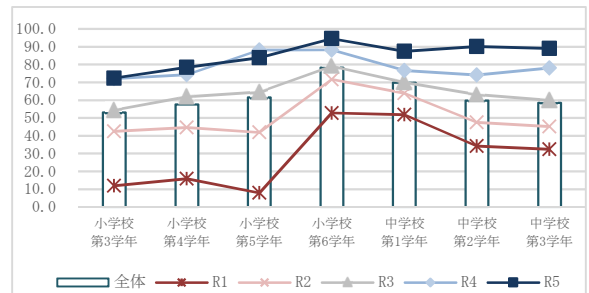
② 書く能力



③ 読む能力

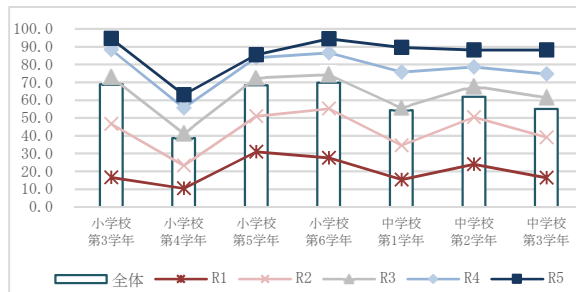


④ 言語についての知識・理解・技能

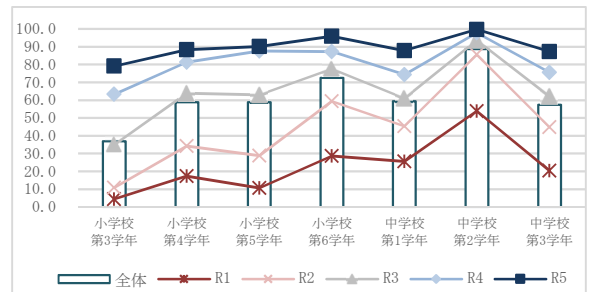


ウ 領域別

① 説明的な文章



② 文学的な文章



## 〔基礎・活用別の学力段階ごとの平均正答率に関する考察〕

- 「基礎」においては、段階間の差をみると R1 と 2 の差が最も大きい傾向にある。R1 への特別な手だての必要性がみてとれる。正答率は小学校第 6 学年と中学校第 2 学年が最も高い。これは、前述のとおり、設問の難易度が影響していると考えられる。
- 「活用」については、段階間の差では、学年進行にしたがって R1 と 2 の差が広がっていく傾向にある。正答率は、R1・2 とともに、中学校第 2 学年までは学年進行にしたがってゆるやかに上昇し、中学校第 3 学年で再び縮まる。

## 〔観点別の学力段階ごとの平均正答率に関する考察〕

- 「書く能力」に関する課題は依然大きく、R1 と 5 の差は 78 ポイントと 4 観点中で最も大きい。特に小学校第 4 学年を境に R1 と 2 の差が徐々に開いていき、中学校第 3 学年で再び差が縮まる。
- 「話す・聞く能力」については、他観点別能力と比較して正答率が高い。他観点と比較し、R1 の正答率が 58% と高いことが背景にある。
- 「読む能力」では、R1 と 2 の差が、全学年を通し、他段階間の差と比べて大きい。
- 「言語についての知識・理解・技能」については、当該観点到に含まれる設問レベルは全て基礎 C であり、全ての児童・生徒に確実に習得させる必要のある＝通過率 100% を目標とする。この基準に照らすと、最も大きな課題を残している。

## 〔領域別の学力段階ごとの平均正答率に関する考察〕

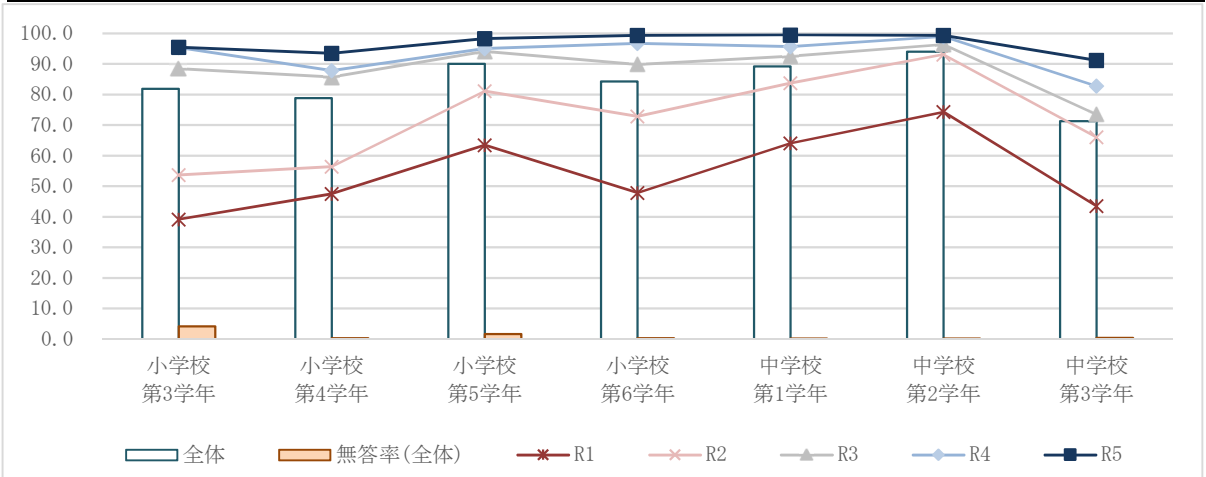
- 設問レベル・難易度が完全に同一ではないため慎重に考察する必要があるものの、例年「文学的な文章」の平均正答率と比較し、「説明的な文章」のそれが低い傾向にあった。今年度は、小学校第 3 学年と第 5 学年では「説明的な文章」が高いものの、全体としては例年と同様の傾向がみられた。この背景には、文学的な文章が説明的な文章に比べ身近に触れることの多い存在であることが考えられる。しかし、「文学的文章」と「説明的文章」の平均正答率の差は 1 ポイントと、昨年度の差 11 ポイントと比べ小さい。意図的に触れさせるべき「説明的文章」の指導において、指導内容の【系統性】を構造的に理解したつながりのある指導が行われ、その効果が表れてきていると考えられる。
- ◎（概括 1）上記は、正答率を主たる材料としており、また同個体の経年変化に基づく考察ではない。よって、正答率の微細な変化や差をもって、学年進行に伴う傾向、観点・領域間を比較した傾向を同定し、学習や指導の実態とすることは避けるべきである。学力・学習状況には、経済や社会関係、文化といった資本も影響している。
- ◎（概括 2）以下の四点については、学習や指導の改善方策を重点的に考える必要がある。①「書く能力」が他観点と比較して低く、小学校第 4 学年から差が開く傾向、②「読む能力」における「自分の考えの形成及び交流」「自分の考えの形成」の無答率が高い傾向、③「読む能力」の R1 と 2 の差が大きい傾向、④「言語についての知識・理解・技能」の平均正答率が低い傾向。

(4) 領域別に抽出した設問の(準)通過率・無答率

ア 聞く・話すこと（聞くことの系統）

① 「聞くこと」に関する設問の出題趣旨と学力段階別(準)通過率(%)

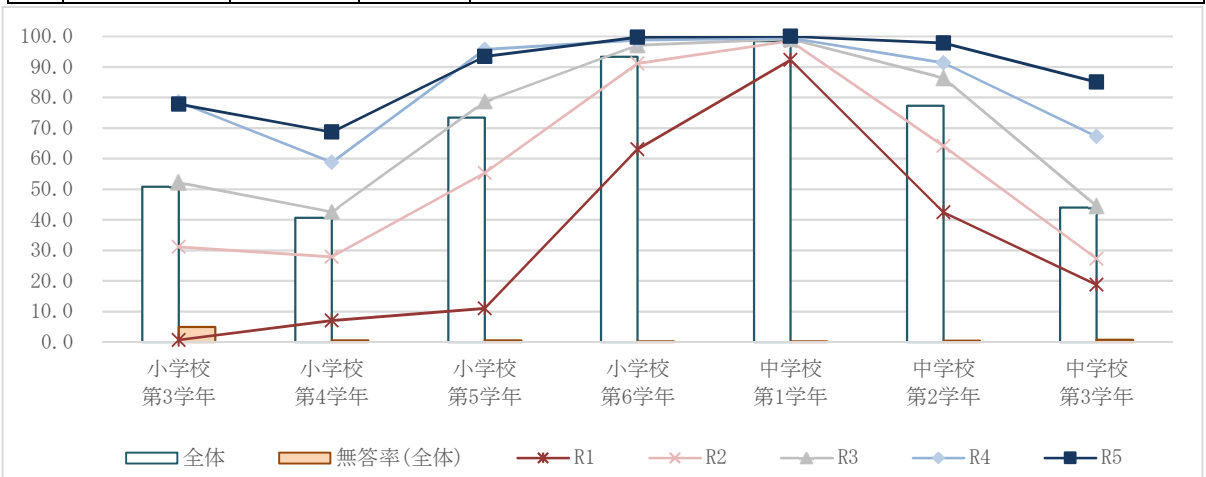
| 校種・学年 |      | レベル  | 番号  | 出題趣旨・内容                      |
|-------|------|------|-----|------------------------------|
| 小学校   | 第3学年 | 基礎 B | 1-1 | エ 大事なことを落とさないように聞く。          |
|       | 第4学年 | 基礎 B | 1-1 | エ 話の中心を聞き取る。<br>(要点を1文で書く。)  |
|       | 第5学年 |      |     | (意見の内容を捉える。)                 |
|       | 第6学年 | 基礎 B | 1-1 | エ 話し手の意図を捉える。<br>(話の目的を捉える。) |
| 中学校   | 第1学年 | 基礎 B | 1-1 | エ 質問しながら聞き取る。<br>(意見に質問をする。) |
|       | 第2学年 | 基礎 B | 1-1 | エ 話の論理的な構成や展開に注意して聞く。        |
|       | 第3学年 | 基礎 B | 1-1 |                              |



イ 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項（言葉の特徴や決まり）

② 「語句・言葉」に関する設問の出題趣旨と学力段階別(準)通過率(%)

| 校種・学年 |      | レベル  | 番号  | 出題趣旨・内容              |
|-------|------|------|-----|----------------------|
| 小学校   | 第3学年 | 基礎 C | 2-2 | カ 文中から主語と述語を押さえる。    |
|       | 第4学年 | 基礎 C | 2-2 | キ 文中の語句を修飾している語を捉える。 |
|       | 第5学年 |      |     | 重文を単文に分ける。           |
|       | 第6学年 | 基礎 C | 2-2 | 複文を単文に分ける。           |
| 中学校   | 第1学年 | 基礎 C | 2-2 | エ 自立語と付属語に分類する。      |
|       | 第2学年 | 基礎 C | 2-2 | エ 動詞・形容詞・助動詞に分類する。   |
|       | 第3学年 | 基礎 C | 2-2 |                      |





## 〔「聞くこと」に関する設問の考察〕

小学校では、話の中心や話し手の意図を聞き取ることができるかどうか、中学校では意見に対して質問したり、話の構成や展開に注意して聞き取ったりすることができるかどうかを趣旨とする設問を抽出しており、全ての児童・生徒に確実な習得を目指す基礎 B のレベルである。

話の中心を聞き取って要点を 1 文で書く小学校第 5 学年の通過率は、90.1%である。要点をつかむ力を中学年で確実に付けることが要点を 1 文で書く力となり、この力は、話し手の意図を捉える力につながっていく。中学校第 2 学年の話し手の意図を捉える趣旨の設問では、98.2%と確実に身に付いてきているといえる。

中学校第 3 学年の設問は、話し手が構成を考えて話しているか、論理的に話しているかなどの話の仕方の工夫を問うものである。全体の通過率が 71.3%であり、前学年と比較すると全ての段階で通過率が低下していることから、多くの生徒にとってこうした学習経験が不足しているのではないかと考える。

R1・2 の児童・生徒の聞く力を高めるために、次のような指導の手だてが効果的である。第一に、話す時は話す内容に入る前に「話題」を前置きする習慣を付けること。第二に、聞く時は「何についての話か」「話題は何か」など、全体を捉えるようにすること。第三に、読む時には作品を最初から細部を読むのではなく、「何についての話か」「どんなあらすじか」など、話の大体をつかんでから細部を読むようにすること。話や作品を構造的に聞いたり読んだりするような指導を工夫するとよい。

## 〔「語句・言葉」に関する設問の考察〕

中学校第 2・3 学年以外は、文中の主語と述語、修飾語と被修飾語の関係を問う設問を抽出しており、全ての児童・生徒に確実な習得を目指す基礎 C のレベルである。

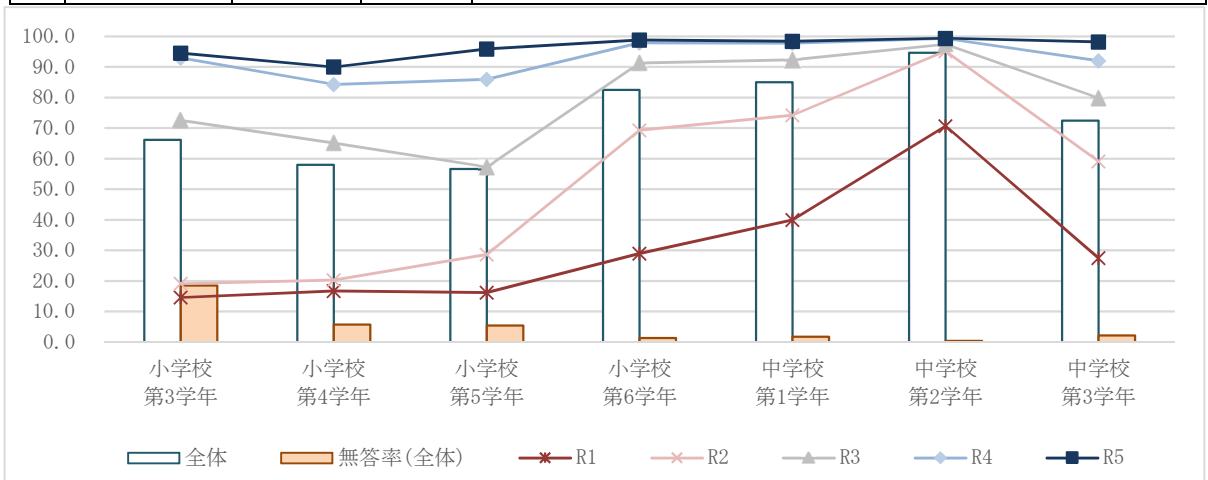
小学校低学年の主語と述語との関係を捉える力は、中学年の修飾と被修飾との関係などを捉え、文や文章を正しく理解する力につながっていく。文中から主語と述語を押さえる小学校第 3 学年の通過率が 50.8%、修飾と被修飾との関係を捉える小学校第 4 学年の通過率が 40.7%であることは大きな課題である。しかし、同趣旨の小学校第 5 学年が 73.4%の通過率であることから、指導の改善が徐々に進んでいると推察できる。また、複文を単文に分解する趣旨の中学校第 1 学年は、全体で 98.5%、全段階で 90%台の通過率である。文を正確に読む力は確実に定着してきている。

主語をつかむ具体的な指導の手だては、先に「述語」を見付けさせることにある。文の中で述語を省略することはほとんどなく、述語は文の最後に書かれているのでつかみやすい。主語は、述語から離れて書かれていたり省略されていたりすることや、主語を表す助詞には「も」「だけ」「こそ」等もあることに気を付ける。「は」「が」のみが主語であると思込んでいることもある。いろいろな文章を読み、どんな長い文でも主語と述語、修飾と被修飾の関係を押さえさえすれば文を正確に読むことができるという体験をさせることが必要である。

ウ 書くこと（構成、推敲の系統）

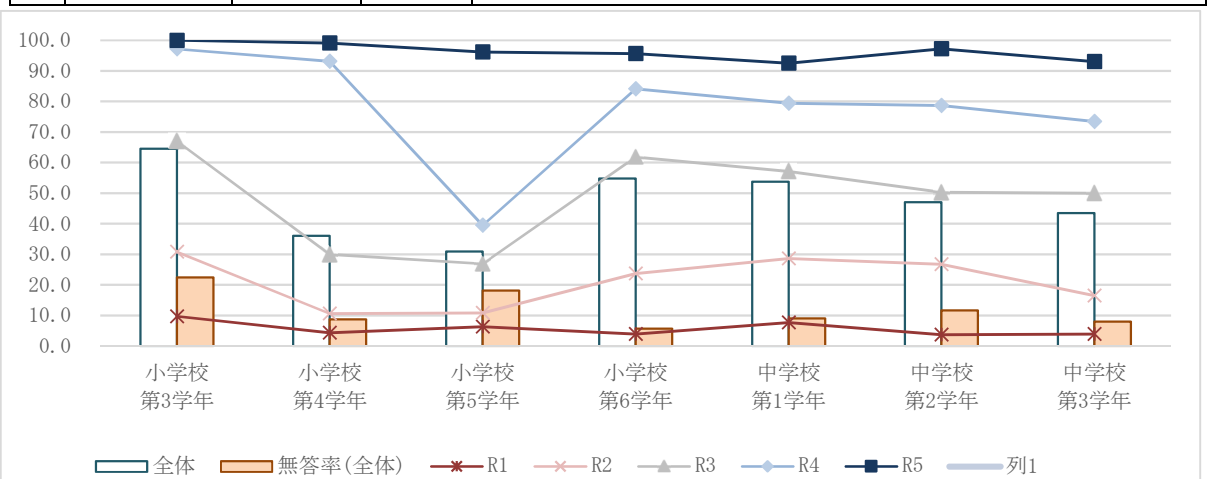
① 「構成」に関する設問の出題趣旨と学力段階別（準）通過率（％）

| 校種・学年 |      | レベル  | 番号  | 出題趣旨・内容               |
|-------|------|------|-----|-----------------------|
| 小学校   | 第3学年 | 基礎 B | 5-1 | イ 事柄の順序に沿って簡単な構成を考える。 |
|       | 第4学年 | 基礎 B | 5-1 | イ 文章全体における段落の役割を理解する。 |
|       | 第5学年 |      |     |                       |
|       | 第6学年 | 基礎 B | 5-1 | イ 文章全体の構成の役割を考える。     |
| 中学校   | 第1学年 | 基礎 B | 5-1 | イ 文章全体の構成から段落の効果を考える。 |
|       | 第2学年 | 基礎 B | 5-1 | イ 段落の役割を考えて接続語を選ぶ。    |
|       | 第3学年 | 基礎 B | 5-1 | イ 文章全体の構成の工夫を理解する。    |



② 「推敲」に関する設問の出題趣旨と学力段階別（準）通過率（％）

| 校種・学年 |      | レベル  | 番号  | 出題趣旨・内容               |
|-------|------|------|-----|-----------------------|
| 小学校   | 第3学年 | 活用 A | 5-2 | エ 間違いなどに気付き、正す。       |
|       | 第4学年 | 活用 A | 5-2 | エ 文章の間違いを正しく直す。       |
|       | 第5学年 |      |     | オ 文章をよりよい表現に書き直す。     |
|       | 第6学年 | 活用 A | 5-2 | オ 表現の効果を考えて文を書き直す。    |
| 中学校   | 第1学年 | 活用 A | 5-2 | オ 意味をを考えて正しい文に書き直す。   |
|       | 第2学年 | 活用 A | 5-2 | エ 叙述の仕方について適切に書き直す。   |
|       | 第3学年 | 活用 A | 5-2 | エ 段落相互の関係を考えて適切に書き直す。 |



### 〔「構成」に関する設問の考察〕

小学校・中学校ともに、文章を書くときの構成をどのようにするかを問う設問である。具体的には自分の考えを明確に表現するために文章全体において段落が果たす役割や効果、段落相互の関係などを問う設問を抽出しており、全ての児童・生徒に確実な習得を目指す基礎 B のレベルである。

小学校第 3 学年は事柄の順番を捉え、第 4・5 学年は文章全体の基礎となる段落相互の関係を捉える設問である。第 4・5 学年の通過率が 50% 台から 60% 台となり、段落の役割から文章の構成を考える学習が定着していないといえる。しかし、第 6 学年から中学校第 2 学年の通過率が 82.5%、85.0%、94.7% と上昇していることから、文章全体の構成や段落の役割を考える力は、学年が上がるにつれて定着してきているといえる。

説明的な文章は「初め・中・終わり」の三部構成であること、「初め」の段落は「問いと話題」、「中」の段落は「問いの答え、筆者の説明や根拠」、「終わり」は「説明のまとめ、話題に関しての考え」が書かれていること、そして、段落相互の関係はその関係にふさわしい働きをする接続語で結ばれていることを、読んだり書いたりすることを通じて身に付けさせる指導が必要である。

言葉や文・文章は具体と抽象の関係で書かれていることを理解させることも重要である。特に、説明的な文章では、考えを書く「終わり」の文章は抽象的に、説明を書く「中」の文章は具体的に書くことを指導する。文学的な文章では、抽象的な言葉を具体的な言葉で言い替えてイメージを描く、反対に具体的なイメージを抽象的な言葉で言い表すなど、抽象と具体の往還が必要である。

### 〔「推敲」に関する設問の考察〕

間違いを直したり、よりよい文に書き直したりすることを趣旨とする推敲の設問である。今年度が初出となる。低学年の語句の間違いを正す力が、中学年の文章上の間違いを正してよりよい表現に直す力につながり、高学年では表現の効果を考える力につながっていく。小学校第 4 学年では、「これからは」に続く文にするために「書いた」を未来形の「書きたい」に推敲する。小学校第 5 学年は、重文の述語の重なりを一つに正す設問である。通過率はいずれも 30% 台であり、大きく課題を残した。

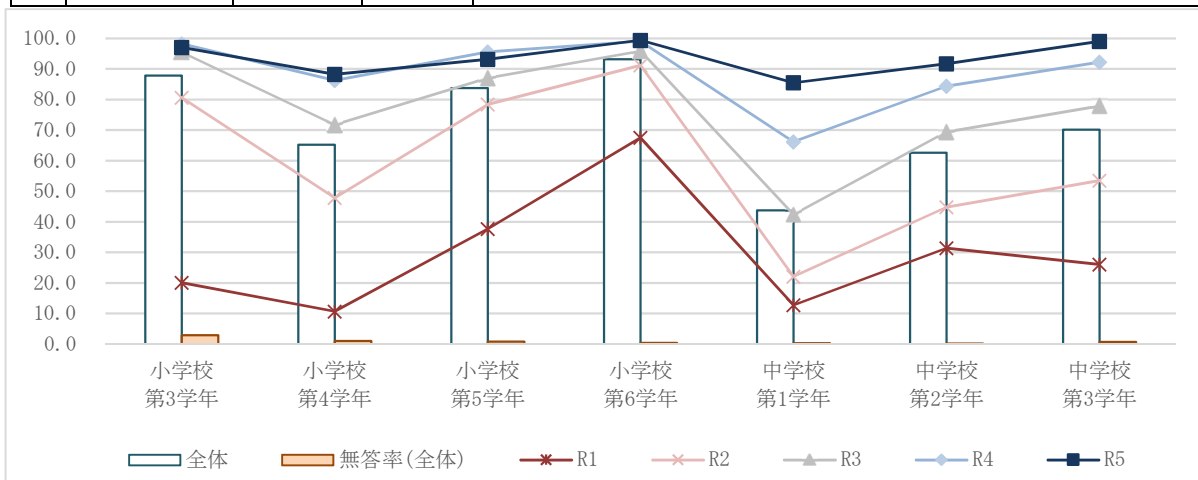
推敲は、文を書いた後に、仮名や漢字など表記上の間違いを正すことだけを意味しない。系統性を構造的に理解したうえで、よりよい表現に書き直す、適切に書き直すといった活動を連続的に展開することが求められている。「よりよい表現に書き直す」とは、伝えようとする事実や事柄、意見などが十分に書き表されているかどうかを検討することである。表記や語句の用法、叙述の仕方（特に文末表現・述語の重複・主語のねじれ）など、指導事項を踏まえて具体的な文例を使って指導するようにする。

「適切に書き直す」とは、伝えたい事柄にふさわしい語句や文の使い方、段落の分け方や段落相互の関係、全体と部分の関係などが適切かどうかを考えることである。

エ 読むこと「説明的な文章」（文章の解釈の系統）

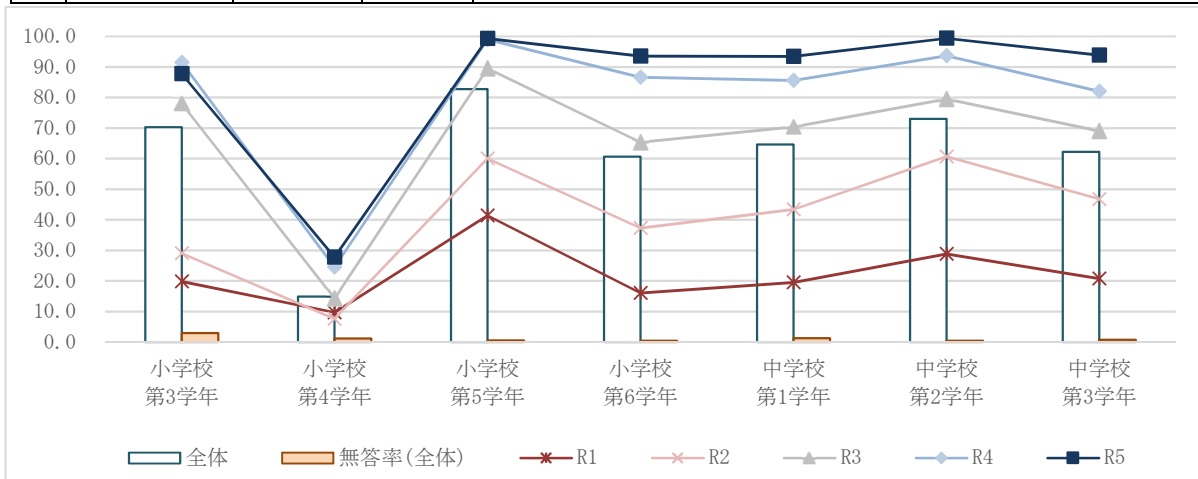
① 「文章の解釈」に関する設問の出題趣旨と学力段階別（準）通過率（％）

| 校種・学年 |      | レベル | 番号  | 出題趣旨・内容                    |
|-------|------|-----|-----|----------------------------|
| 小学校   | 第3学年 | 基礎C | 3-1 | イ 時間の順序や行動の順序を捉える。         |
|       | 第4学年 | 基礎C | 3-1 | イ 文章の中から問いを表す文を捉える。        |
|       | 第5学年 |     | 3-1 | イ 中心的な内容を押さえ小見出しを付ける。      |
|       | 第6学年 | 基礎C | 3-1 | ウ 文章に書かれている話題をつかむ。         |
| 中学校   | 第1学年 | 基礎C | 3-1 | ウ 文章全体の構成を把握する。            |
|       | 第2学年 | 基礎C | 3-1 | イ 文脈における語句の役割を捉える。         |
|       | 第3学年 | 基礎C | 3-1 | イ 抽象的な表現の意味するところを文脈から理解する。 |



② 「文章の解釈」に関する設問の出題趣旨と学力段階別（準）通過率（％）

| 校種・学年 |      | レベル | 番号  | 出題趣旨・内容                  |
|-------|------|-----|-----|--------------------------|
| 小学校   | 第3学年 | 基礎B | 3-2 | イ 内容の大体を押さえる。            |
|       | 第4学年 | 基礎B | 3-2 | イ 文と文の相互関係を表す接続語を捉える。    |
|       | 第5学年 |     | 3-2 | イ 筆者の意見の中心となる事柄を押さえる。    |
|       | 第6学年 | 基礎B | 3-2 | ウ 文章の内容の中心となる文を押さえて要約する。 |
| 中学校   | 第1学年 | 基礎B | 3-2 | イ 幾つかのまとまった段落を要約する。      |
|       | 第2学年 | 基礎B | 3-2 | イ 各段落が文章全体の中で果たす役割を捉える。  |
|       | 第3学年 | 基礎B | 3-2 | イ 各段落が文章全体の中で果たす役割を捉える。  |



## 〔「文章の解釈」に関する設問の考察〕

小学校では書かれている内容の大体や話題をつかんだり、内容の中心を的確に押さえて読んだりすることができるか、中学校では語句の役割や表現の意味を理解できているかどうかを趣旨とした設問を抽出しており、全ての児童・生徒に確実な習得を目指す基礎Cのレベルである。小学校第3学年、第5・6学年は通過率が80%から90%台、小学校第4学年は65%、中学校第1学年は34%である。

小学校第4学年の「問い」は、二段落に書かれている。「問い」は一段落に書かれているものだという固定観念があると、一段落と解答（誤答）してしまう。問いの文は一段落に書かれているとは限らない。

説明的な文章においては、問いの文、説明の文（事実の文）、意見の文を区別するために、文末に着目しながら読むことが大切である。説明型の文章には「問い」に当たる文が書かれており、その「問い」の文末は「～ですか」「～でしょうか」「～でしょう」と表現されていることが多い。ただし、論説型の文章には問いに当たる文がないのが一般的であり、話題として提供されているため、文末に着目するだけでは分からない。したがって、高学年になれば文種を区別して読むことが必要となる。

中学校第1学年は、文章の構成を問う設問で、示されている小見出しに従って形式段落を意味段落にまとめればつかめるものである。小見出しは段落の要点であり、段落の中心となる文の中の重要語句が要点でもあるために、要点の指導が鍵となる。

## 〔「文章の解釈」に関する設問の考察〕

基礎Bの設問である。通過率が最も高かったのは小学校第5学年の70.3%であり、その他の学年は、小学校第4学年を除きおおむね60%から70%である。しかし小学校第4学年は14.9%であり、無答率も1.2%であったことから、設問自体に課題があったと考える。

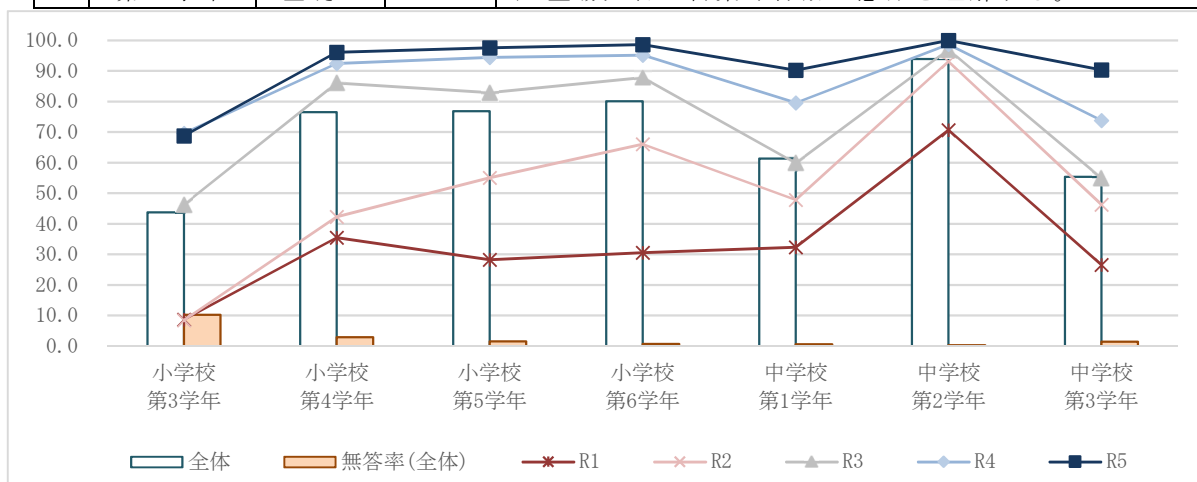
小学校第4学年の設問は文と文とのつながり方を接続語で答えるものである。文脈の中から適切な接続語を選択するためには二つの思考過程が必要となる。まず、前文と後文とのつながり方は並列か、対立か（反対か）、因果関係かの三つが基本であるために、この中から一つ選ぶ。次に、選択肢に示されている四つの接続語がどんな場合に使われるのか、接続語の働きを理解した上で選ぶ。文と文の関係の中でとりわけ難しいのは反対の関係であり、設問は反対の接続語「しかし」を選ぶものであった。しかも、前文が重文であるために、文意の理解も困難であったと考えられる。

小学校第6学年の通過率は60.7%で、設問は筆者が最も伝えたいことはどんなことかを選択肢の中から選ぶものである。筆者の主張が「終わり」の段落に書かれていることが多いのは、これまで繰り返し学習してきている。最後の段落である「終わり」の文に筆者のまとめが書かれており、そのまとめの文が選択肢の文言と同じであるにもかかわらず、約40%が誤答であった。書かれている内容を理解するだけでなく、文章の構成や構造など、表現の特徴や表現の仕方を考える指導が一層必要である。

オ 読むこと「文学的な文章」（文章の解釈／自分の考えの形成の系統）

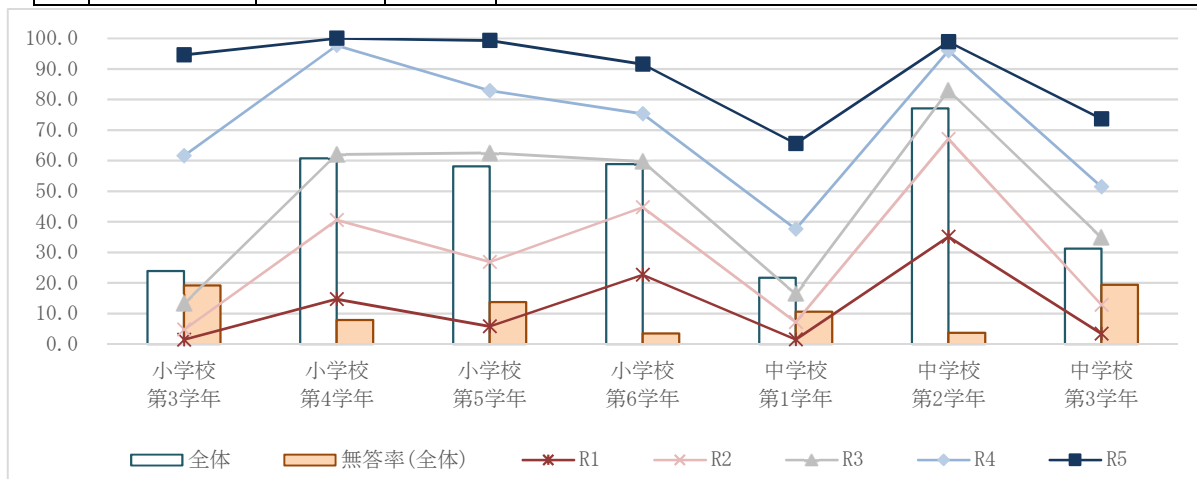
①「文章の解釈」に関する設問の出題趣旨と学力段階別（準）通過率（％）

| 校種・学年 |      | レベル  | 番号  | 出題趣旨・内容                     |
|-------|------|------|-----|-----------------------------|
| 小学校   | 第3学年 | 基礎 B | 4-2 | ウ 登場人物の行動を想像する。             |
|       | 第4学年 | 基礎 B | 4-2 | ウ 登場人物の行動や会話から登場人物の性格を押さえる。 |
|       | 第5学年 |      |     |                             |
|       | 第6学年 | 基礎 B | 4-2 | エ 登場人物の行動や会話から登場人物の心情を捉える。  |
| 中学校   | 第1学年 | 基礎 B | 4-3 | ウ 登場人物の描写から内容を理解する。         |
|       | 第2学年 | 基礎 B | 4-3 | ウ 登場人物の描写から内容を理解する。         |
|       | 第3学年 | 基礎 B | 4-2 | イ 登場人物の言葉や行動の意味を理解する。       |



②「自分の考えの形成」に関する設問の出題趣旨と学力段階別（準）通過率（％）

| 校種・学年 |      | レベル  | 番号  | 出題趣旨・内容                        |
|-------|------|------|-----|--------------------------------|
| 小学校   | 第3学年 | 活用 A | 4-3 | エ 文章の中から大事な言葉や文を書き抜く。          |
|       | 第4学年 | 活用 A | 4-4 | ウ 人物の行動の意味を考える。                |
|       | 第5学年 |      |     | ウ 人物の描写や気持ちを想像する。              |
|       | 第6学年 | 活用 A | 4-4 | エ 優れた叙述（表現）に気付き自分の考えをもつ。       |
| 中学校   | 第1学年 | 活用 A | 4-4 | エ 優れた叙述（表現）に気付き自分の考えをまとめる。     |
|       | 第2学年 | 活用 A | 4-3 | エ 文章の表現の特徴について自分の考えをもつ。        |
|       | 第3学年 | 活用 A | 4-3 | ウ 表現の仕方について根拠を明確にして自分の考えをまとめる。 |



### 〔「文章の解釈」に関する設問の考察〕

登場人物の行動・性格・人物相互の関係・心情・心情の変化などを問う趣旨の設問基礎 B の設問である。全体の通過率は小学校第 3 学年で 43.8%、中学校第 1・3 学年はそれぞれ 61.4%・55.4%であり、他学年と比較して 20 から 40 ポイント低い。

小学校第 3 学年は、人物の行動の意味を選択肢から選ぶ設問である。誤答の背景には、二つの原因があると考えられる。それらは、第一に、叙述の直前直後の文のみを読んで答えてしまい文章の初めから読んで考えていないこと、第二に、「てれくさい」の言葉の意味が分かっていないことである。

中学校第 1 学年は抽象的な比喩表現で書かれた人物の行動の意味を、中学校第 3 学年は心情を表す会話文の意味をそれぞれ選択肢から選ぶ設問である。どちらも平易な言葉であることから、言葉の意味そのものが分からないのではなく、文脈の中から意味を想像することができていないのではないかと考える。

文章の読みにおいては、抽象的に書かれた言葉や文を、具体的にイメージする過程を通し、正確且つ豊かに理解させるようにする。具体的にイメージするとは、具体的な言葉で言い換えたりイメージしたことを映像で思い描いたりすることであり、これらは自分自身の体験や豊かな読書によって支えられる。「この言葉を具体的な言葉で言い替えると?」「この言葉からどのような映像が浮かぶか?」「この文章からどんなことが分かるか?」といった発問によってこうした力を育成していく必要がある。

### 〔「自分の考えの形成」に関する設問の考察〕

小学校第 3 学年の設問は「文章の中から大事な言葉や文を書き抜く」を趣旨とし、全体の通過率は 23.9%であった。低学年の「文章の中から大事な言葉や文を書き抜く」力を確実に付けることが、中学年の「叙述を基に想像して読む」力になる。登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて想像するときは、叙述の中から象徴的に書かれた重要語句や文に着目しなければならない。重要語句や文とは、とりもなおさず、大事な言葉や文に他ならない。この力は高学年の「優れた叙述について自分の考えをまとめる」力、中学校の「描写に注意して読む」力につながる。

小学校第 6 学年以上は文章の表現の工夫や特徴について、自分はどのように考えるかを問う趣旨の設問である。中学校第 1 学年では、全体の通過率が 21.7%であった。中学校第 1 学年の「『自分の言葉』という表現を作者が何度も使っているのはなぜか」という設問文にみられるように、問われているのは話の内容ではない。話の内容に関しては一人一人の想像（力）による解釈の多様性が認められる一方、話の表現に関しては作者が表現した意味や意図、効果を論理的に説明する力が求められる。具体的には、小学校第 6 学年の「『白いばら』を『真っ白いばら』と表現したのはなぜか」という設問文のように、『白』と『真っ白』の意味の違い、作者が使い分けた意図や効果について、文脈の中から考えて適切な言葉で説明する力である。

文学的な文章では、内容や表現の解釈とともに、考えを説明する力が求められる。

# 3 各学年の結果と分析、考察と改善策

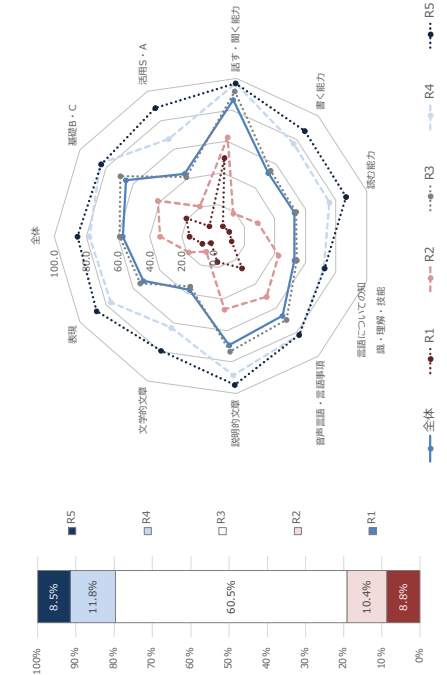
## 小学校第3学年

| 課題番号 | 出題 |    | 学習目標の観点        |    |    |    |    | 相関性の領域 |    |    |    |    | 結果 |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
|------|----|----|----------------|----|----|----|----|--------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
|      | 内容 | 形式 | 1              | 2  | 3  | 4  | 5  | A      | B  | C  | D  | E  | 1  | 2  | 3  | 4  | 5  | 1  | 2  | 3  | 4  | 5  |    |    |
| 1    | 1  | 1  | 大抵のことわざをよみかきしる | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字     | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 |
| 2    | 1  | 2  | 長を短くして書くこと     | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字     | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 |
| 3    | 1  | 2  | 短くして書くこと       | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字     | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 |
| 4    | 1  | 2  | 短くして書くこと       | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字     | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 |
| 5    | 1  | 2  | 短くして書くこと       | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字     | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 |
| 6    | 1  | 2  | 短くして書くこと       | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字     | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 |
| 7    | 1  | 2  | 短くして書くこと       | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字     | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 |
| 8    | 1  | 2  | 短くして書くこと       | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字     | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 |
| 9    | 1  | 2  | 短くして書くこと       | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字     | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 |
| 10   | 1  | 2  | 短くして書くこと       | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字     | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 |
| 11   | 1  | 2  | 短くして書くこと       | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字     | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 |
| 12   | 1  | 2  | 短くして書くこと       | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字     | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 |
| 13   | 1  | 2  | 短くして書くこと       | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字     | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 |
| 14   | 1  | 2  | 短くして書くこと       | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字     | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 |
| 15   | 1  | 2  | 短くして書くこと       | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字     | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 |
| 16   | 1  | 2  | 短くして書くこと       | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字     | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 |
| 17   | 1  | 2  | 短くして書くこと       | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字     | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 | 漢字 |
| 18   |    |    |                |    |    |    |    |        |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 19   |    |    |                |    |    |    |    |        |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 20   |    |    |                |    |    |    |    |        |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 21   |    |    |                |    |    |    |    |        |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 22   |    |    |                |    |    |    |    |        |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 23   |    |    |                |    |    |    |    |        |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 24   |    |    |                |    |    |    |    |        |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 25   |    |    |                |    |    |    |    |        |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 26   |    |    |                |    |    |    |    |        |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 27   |    |    |                |    |    |    |    |        |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 28   |    |    |                |    |    |    |    |        |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 29   |    |    |                |    |    |    |    |        |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 30   |    |    |                |    |    |    |    |        |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |

■ 対象教科、収集・学年、出題範囲、対応教科

| 教科等   | 国語科     |
|-------|---------|
| 収集・学年 | 小学校第3学年 |
| 出題範囲  | 小学校第3学年 |
| 対応教科等 | 光村図書出版  |

■ 学習状況の分布（学力段階）、段階別の平均正答率（%）



| 課題 | %    | 平均正答率 (%) |                |                |                |                |                |
|----|------|-----------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
|    |      | 全体        | R1             | R2             | R3             | R4             | R5             |
| 16 | 1    | 97.0      | 15.3           | 33.7           | 59.0           | 78.0           | 85.5           |
| 10 | 62.5 | 65.4      | 20.3           | 41.5           | 69.8           | 84.4           | 83.8           |
| 6  | 37.5 | 43.0      | 6.9            | 20.7           | 41.0           | 67.2           | 88.3           |
|    |      | 全体        | 国語への関心・意欲・態度   | 国語への関心・意欲・態度   | 国語への関心・意欲・態度   | 国語への関心・意欲・態度   | 国語への関心・意欲・態度   |
|    |      | 1         | 漢字・A           | 漢字・A           | 漢字・A           | 漢字・A           | 漢字・A           |
|    |      | 2         | 漢字・B           | 漢字・B           | 漢字・B           | 漢字・B           | 漢字・B           |
|    |      | 3         | 漢字・C           | 漢字・C           | 漢字・C           | 漢字・C           | 漢字・C           |
|    |      | 4         | 漢字・D           | 漢字・D           | 漢字・D           | 漢字・D           | 漢字・D           |
|    |      | 5         | 漢字・E           | 漢字・E           | 漢字・E           | 漢字・E           | 漢字・E           |
|    |      | A         | 国語の読み・書き・理解・技能 | 国語の読み・書き・理解・技能 | 国語の読み・書き・理解・技能 | 国語の読み・書き・理解・技能 | 国語の読み・書き・理解・技能 |
|    |      | B         | 国語の読み・書き・理解・技能 | 国語の読み・書き・理解・技能 | 国語の読み・書き・理解・技能 | 国語の読み・書き・理解・技能 | 国語の読み・書き・理解・技能 |
|    |      | C         | 国語の読み・書き・理解・技能 | 国語の読み・書き・理解・技能 | 国語の読み・書き・理解・技能 | 国語の読み・書き・理解・技能 | 国語の読み・書き・理解・技能 |
|    |      | D         | 国語の読み・書き・理解・技能 | 国語の読み・書き・理解・技能 | 国語の読み・書き・理解・技能 | 国語の読み・書き・理解・技能 | 国語の読み・書き・理解・技能 |
|    |      | E         | 国語の読み・書き・理解・技能 | 国語の読み・書き・理解・技能 | 国語の読み・書き・理解・技能 | 国語の読み・書き・理解・技能 | 国語の読み・書き・理解・技能 |

| 学習状況の分布（学力段階） |       |       |       |      |  |
|---------------|-------|-------|-------|------|--|
| R1            | R2    | R3    | R4    | R5   |  |
| 8.8%          | 10.4% | 60.9% | 11.8% | 8.5% |  |

| レベル | 説明   | S  | 3    | 18.8 |
|-----|------|----|------|------|
| レベル | 基礎   | A  | 3    | 18.8 |
|     | 基礎   | B  | 5    | 31.3 |
|     | 基礎   | C  | 5    | 31.3 |
|     | 基礎   | D  | 9    | 56.7 |
|     | 基礎   | E  | 3    | 18.8 |
| 形式  | 自由記述 | 4  | 25.0 |      |
|     | 選択   | 12 | 75.0 |      |
|     | 記述   | 3  | 6.7  |      |
|     | 選択   | 3  | 18.8 |      |



【句読点の打ち方を理解して文章で使う設問 大問2 (3) 基礎C 19. 5%】

「大きな声を出したのは、わたしだ。」ということがわかるように、( ) に点を一つうちましよう。

わたしは ( ) 大きな声で ( ) 歌っている妹を ( ) よんだ。

■ 結果

全体の通過率は 19. 5%であった。段階別にみると R5=40. 5%、R4=39. 2%、R3=16. 8%、R2=11. 1%、R1=1. 0%であり、R4・5 においても 50%に到達しない。ここでは、大きな声でよんでいるのは「わたし」だと判断し、「大きな声で」の後に読点を打てばよい。最多の誤答は「わたしは、」の 36. 3%である。これでは、大きな声を出した(歌っている)のは「妹」になってしまう。

■ 考察

正しい意味が伝わるように句読点を適切に打つ設問は、昨年度も 19. 7%と通過率が低い。「わたしは」の後に読点を打った児童が多いということは、文意を捉えていないことの表れである。読点は、格助詞の「は」「が」の後に付けるものと思いついたり、主語のすぐ後に打つものだと形式的に理解していたりして、文脈に合わせて適切に打つことができずに誤答したと考える。「大きな声で」は主語の「わたし」を詳しくしているが、このような関係を理解する学習に不慣れであったと考える。

■ 授業改善

- (1) 文や文章の中の主語と述語の関係を確かめながら、文の意味が正確に理解できるようにする。視覚で捉えられるように主語にサイドラインを引いたり、印を付けたりしながら確認していくことも効果的である。
- (2) 主語がどのように用いられるか、主語の書かれ方についていろいろな場合があることを指導する。
  - ①主語が二人以上の場合
  - ②主語に修飾語が付いている場合
  - ③主語と述語とがかけ離れている場合
  - ④主語を省略したり、人物や生物ではなく物であっても主語になったりする場合
  - ⑤主語の後に付く助詞が、「こそ」「も」「か」などの場合
- (3) 日常的に短作文の指導を行い、「書く」領域でも、主述の関係を明確にした文を意識して書かせるようにする。
- (4) 「話す・聞く」領域でも、主述の関係を意識した話し方ができるように指導する。

【登場人物の行動を想像する設問 大問4 (2) 基礎B 43. 8%】

「てれくさそうにかおおを見あわせました。」とありますが、なぜ、二人はてれくさそうにしたのですか。つぎから一つえらび、記号で答えましよう。

■ 結果

「ア おこっていることが、きゆうにはずかしくなかったから。」を選べていれば正答である。全体の通過率は 43. 8%である。段階別では、R1=8. 7%、R2=8. 5%、R3=46. 3%、R4=69. 6%、R5=68. 8%となっている。R1・2 と R3 との段階差が大きい。誤答で最も多かったのが、「イ 子犬の走り回るようすが、おもしろかったから。」の 25. 1%であった。次いで「ウ 名前をきかれたことが、はずかしかったから。」が 13. 5%である。R1・2 の無答率は、それぞれ 51%・27. 6%であった。

■ 考察

今まで言い合っていた二人が子犬に目をやり、このままけんかが続けると子犬を踏みつけてしまいそうだと、再び目を合わせた場面である。些細なことで怒っていた自分に気が付き、それが急に恥ずかしく思えた「ア」が正答である。「イ」を選んだのは、照れくさそうに顔を見合わせるといふ経験が少なく、どんな心情によるものかを想像することができずに、「てれくさい表情→笑っているような表情→おもしろかった」とイメージからつなげたのではないかと推測できる。また、R1・2 の無答率が高いことから、その言葉自体が理解できなかったということも考えられる。「ウ」の選択は、「はずかしい」という心情は捉えたが、二重線の直後にある「おまえ、なんというんだ。」との会話文から、「名前をきかれた」という印象が残って誤答したとも考えられる。

■ 授業改善

- (1) 登場人物は誰なのか、登場人物が何を話し、どんなことをしたのかなど、言動に着目して読むことを繰り返し丁寧に指導する。人物の主な行動が書かれている叙述に着目し、人物と対人物に色別にサイドラインを引くと分かりやすい。
- (2) 登場人物の心情を読み取るときは、会話文や内言・行動など、着目する叙述にサイドラインを引いたり書き抜いたりする。叙述を根拠に話し合ったり、想像を広げたりする学習を丁寧に積み重ねることが大切である。
- (3) 実際に経験したことがないような場面では、説明や資料提示をし、必要に応じて動作化させることで、疑似体験や実感を伴った解釈ができるよう工夫する。
- (4) 文中の言葉を使い換えたり、新しく出会った表現を取り上げたりすることで、語彙を豊かにし、多様な表現を学習することができるように指導する。

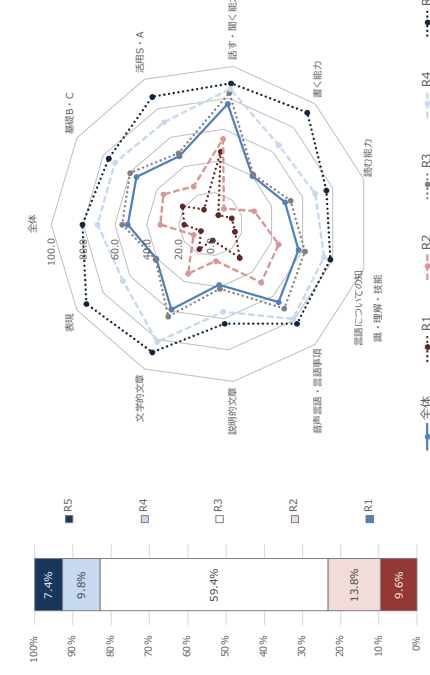
### 小学校第4学年

| 課題番号 | 出題                           |      |       |   |   |   |   | 学習目標の観点 |   |   |   |   |   |     |     |        |      | 出題   |        |      |      |      |       |      |      |      |      |     |     |
|------|------------------------------|------|-------|---|---|---|---|---------|---|---|---|---|---|-----|-----|--------|------|------|--------|------|------|------|-------|------|------|------|------|-----|-----|
|      | 内容                           | 解答形式 | 設問レベル | 1 | 2 | 3 | 4 | 5       | A | B | C | D | E | (動) | (静) | 出題率(%) | 出題   | 割合   | 出題率(%) |      |      |      |       |      |      |      |      |     |     |
| 1    | 1.1 視の中心に数を付けて書くこと           | 選択   | 複条件   |   |   |   | ● |         | ■ |   |   |   |   |     |     |        | 78.3 | 78.3 | 47.5   | 56.4 | 85.8 | 87.9 | 93.5  | 0.3  | 3.3  | 0.0  | 0.0  | 0.0 | 0.0 |
| 2    | 1.2 視の中心に数を付けて書くこと           | 選択   | 複条件   |   |   |   | ● |         | ■ |   |   |   |   |     |     |        | 74.0 | 74.0 | 44.5   | 51.5 | 81.0 | 83.7 | 85.7  | 4.7  | 17.1 | 10.0 | 2.2  | 1.3 | 1.3 |
| 3    | 2.1 種類が異なる数や数詞の活用を整理すること     | 選択   | 選択    |   |   |   |   |         | ■ |   |   |   |   |     |     |        | 55.5 | 55.5 | 14.4   | 39.5 | 57.9 | 72.2 | 70.0  | 0.6  | 5.0  | 0.2  | 0.1  | 0.0 | 0.0 |
| 4    | 2.2 数詞の種類・数詞の活用を整理すること       | 選択   | 選択    |   |   |   |   |         | ■ |   |   |   |   |     |     |        | 40.7 | 40.7 | 7.0    | 27.9 | 42.6 | 58.8 | 68.7  | 0.6  | 5.4  | 0.7  | 0.1  | 0.0 | 0.0 |
| 5    | 2.3 計算を利用して解く方法を整理すること       | 選択   | 選択    |   |   |   |   |         | ■ |   |   |   |   |     |     |        | 78.5 | 78.5 | 26.4   | 66.7 | 85.2 | 91.8 | 96.5  | 0.8  | 6.7  | 0.7  | 0.2  | 0.0 | 0.0 |
| 6    | 3.1 内容の中心となる語句や文意を整理すること     | 選択   | 選択    |   |   |   |   |         | ■ |   |   |   |   |     |     |        | 65.2 | 65.2 | 10.7   | 47.8 | 71.7 | 86.3 | 88.3  | 1.0  | 8.4  | 0.9  | 0.1  | 0.0 | 0.0 |
| 7    | 3.2 段落相互の関係性を整理すること          | 選択   | 選択    |   |   |   |   |         | ■ |   |   |   |   |     |     |        | 14.9 | 14.9 | 9.7    | 7.6  | 14.3 | 24.3 | 27.8  | 1.2  | 5.7  | 1.2  | 0.2  | 0.0 | 0.0 |
| 8    | 3.3 事象と原因の関係を整理すること          | 選択   | 選択    |   |   |   |   |         | ■ |   |   |   |   |     |     |        | 38.1 | 38.1 | 9.0    | 10.9 | 41.5 | 61.8 | 68.3  | 1.6  | 10.0 | 1.8  | 0.5  | 0.3 | 0.4 |
| 9    | 3.4 要点や理由が文に注意して読み、引用・要約すること | 記述   | 記述    |   |   |   |   |         | ■ |   |   |   |   |     |     |        | 67.7 | 67.7 | 22.7   | 48.7 | 70.2 | 98.0 | 100.0 | 3.6  | 21.1 | 5.5  | 1.5  | 0.0 | 0.0 |
| 10   | 3.5 文章の中心となる語句や文意を整理すること     | 記述   | 記述    |   |   |   |   |         | ■ |   |   |   |   |     |     |        | 7.8  | 7.8  | 0.0    | 0.9  | 8.0  | 6.5  | 30.9  | 13.4 | 42.5 | 24.5 | 9.1  | 5.2 | 0.4 |
| 11   | 4.1 場面の変化を整理すること             | 選択   | 複条件   |   |   |   |   |         | ■ |   |   |   |   |     |     |        | 27.1 | 27.1 | 7.0    | 13.9 | 28.5 | 40.5 | 48.7  | 2.6  | 17.7 | 4.2  | 0.4  | 0.3 | 0.0 |
| 12   | 4.2 登場人物の性格や感情を整理すること        | 選択   | 複条件   |   |   |   |   |         | ■ |   |   |   |   |     |     |        | 76.5 | 76.5 | 35.5   | 42.3 | 86.1 | 92.5 | 96.1  | 2.9  | 19.1 | 5.8  | 0.4  | 0.0 | 0.0 |
| 13   | 4.3 登場人物の感情の変化を整理すること        | 選択   | 複条件   |   |   |   |   |         | ■ |   |   |   |   |     |     |        | 64.7 | 64.7 | 16.4   | 41.6 | 68.2 | 97.1 | 100.0 | 9.8  | 41.1 | 22.2 | 4.7  | 0.0 | 0.0 |
| 14   | 4.4 人物や場所の描写などについて整理すること     | 記述   | 複条件   |   |   |   |   |         | ■ |   |   |   |   |     |     |        | 60.3 | 60.3 | 14.7   | 40.6 | 62.0 | 97.7 | 100.0 | 7.9  | 35.5 | 15.2 | 3.9  | 0.0 | 0.0 |
| 15   | 4.5 文章の中心となる語句や文意を整理すること     | 選択   | 複条件   |   |   |   |   |         | ■ |   |   |   |   |     |     |        | 85.1 | 85.1 | 12.7   | 32.6 | 65.1 | 84.3 | 90.0  | 5.7  | 25.8 | 14.3 | 2.0  | 0.0 | 0.9 |
| 16   | 5.1 文章全体における段落の構成を整理すること     | 選択   | 複条件   |   |   |   |   |         | ■ |   |   |   |   |     |     |        | 36.1 | 36.1 | 4.3    | 10.4 | 30.0 | 93.1 | 99.1  | 8.7  | 37.8 | 20.8 | 3.8  | 0.0 | 0.0 |
| 17   | 5.2 文章の構成要素を整理すること           | 記述   | 複条件   |   |   |   |   |         | ■ |   |   |   |   |     |     |        | 26.6 | 26.6 | 1.0    | 7.4  | 28.7 | 19.3 | 89.1  | 16.8 | 48.5 | 33.0 | 12.2 | 2.9 | 0.9 |
| 18   | 5.3 書き手の意図や感情を整理すること         | 自由記述 | 複条件   |   |   |   |   |         | ■ |   |   |   |   |     |     |        |      |      |        |      |      |      |       |      |      |      |      |     |     |
| 19   |                              |      |       |   |   |   |   |         |   |   |   |   |   |     |     |        |      |      |        |      |      |      |       |      |      |      |      |     |     |
| 20   |                              |      |       |   |   |   |   |         |   |   |   |   |   |     |     |        |      |      |        |      |      |      |       |      |      |      |      |     |     |
| 21   |                              |      |       |   |   |   |   |         |   |   |   |   |   |     |     |        |      |      |        |      |      |      |       |      |      |      |      |     |     |
| 22   |                              |      |       |   |   |   |   |         |   |   |   |   |   |     |     |        |      |      |        |      |      |      |       |      |      |      |      |     |     |
| 23   |                              |      |       |   |   |   |   |         |   |   |   |   |   |     |     |        |      |      |        |      |      |      |       |      |      |      |      |     |     |
| 24   |                              |      |       |   |   |   |   |         |   |   |   |   |   |     |     |        |      |      |        |      |      |      |       |      |      |      |      |     |     |
| 25   |                              |      |       |   |   |   |   |         |   |   |   |   |   |     |     |        |      |      |        |      |      |      |       |      |      |      |      |     |     |
| 26   |                              |      |       |   |   |   |   |         |   |   |   |   |   |     |     |        |      |      |        |      |      |      |       |      |      |      |      |     |     |
| 27   |                              |      |       |   |   |   |   |         |   |   |   |   |   |     |     |        |      |      |        |      |      |      |       |      |      |      |      |     |     |
| 28   |                              |      |       |   |   |   |   |         |   |   |   |   |   |     |     |        |      |      |        |      |      |      |       |      |      |      |      |     |     |
| 29   |                              |      |       |   |   |   |   |         |   |   |   |   |   |     |     |        |      |      |        |      |      |      |       |      |      |      |      |     |     |
| 30   |                              |      |       |   |   |   |   |         |   |   |   |   |   |     |     |        |      |      |        |      |      |      |       |      |      |      |      |     |     |

■ 対象教科、収集・学年、出題範囲、対応教科

| 教科書   | 国語科     |
|-------|---------|
| 校編・学年 | 小学校第4学年 |
| 出題範囲  | 小学校第4学年 |
| 対応教科書 | 光村図書出版  |

■ 学習状況の分布（学習段階）、出題別の平均正答率(%)



| 時期 | 割合   | 出題   | 割合 | 出題   |
|----|------|------|----|------|
| 18 | 11   | 61.1 | 18 | 51.9 |
| 7  | 38.9 | 38.9 | 7  | 47.0 |
| 2  | 11.1 | 11.1 | 2  | 76.4 |
| 3  | 16.7 | 16.7 | 3  | 40.2 |
| 10 | 55.6 | 55.6 | 4  | 48.8 |
| 3  | 16.7 | 16.7 | 5  | 57.5 |
| 5  | 27.8 | 27.8 | A  | 65.1 |
| 5  | 27.8 | 27.8 | B  | 38.8 |
| 5  | 27.8 | 27.8 | C  | 58.9 |
| 3  | 16.7 | 16.7 | D  | 40.2 |
|    |      |      | E  | 41.3 |

| 説明                            | S  | 3    | 16.7 |
|-------------------------------|----|------|------|
| A <td>4</td> <td>22.2</td>    | 4  | 22.2 |      |
| B <td>6</td> <td>33.3</td>    | 6  | 33.3 |      |
| C <td>5</td> <td>27.8</td>    | 5  | 27.8 |      |
| 難易度 <td>10</td> <td>55.6</td> | 10 | 55.6 |      |
| 出題 <td>4</td> <td>22.2</td>   | 4  | 22.2 |      |
| 自由記述 <td>4</td> <td>22.2</td> | 4  | 22.2 |      |
| 選択 <td>12</td> <td>66.7</td>  | 12 | 66.7 |      |
| 算数 <td>2</td> <td>11.1</td>   | 2  | 11.1 |      |
| 複合条件 <td>4</td> <td>22.2</td> | 4  | 22.2 |      |

| 学習状況の分布(学習段階) | R1   | R2    | R3    | R4   | R5   |
|---------------|------|-------|-------|------|------|
| 全体            | 9.6% | 13.8% | 59.4% | 7.4% | 9.6% |

【修飾語・被修飾語の関係を理解する設問 大問2 (2) 基礎C 36.7%】

次の文の「池」をくわしく説明している言葉を二つ選び、記号で答えましょう。  
 (ア) 公園の (イ) 大きな 池に、 (ウ) うすい (エ) 氷がはった。

■ 結果

どんな池なのかを詳しく説明している言葉を判断し、修飾語を二つ選ぶ設問である。池を修飾する言葉であるから、(ア)の「公園の」と、(イ)の「大きな」が正答である。二つを選んでいない場合は正答とならない。誤答を選択は、(イ)は含まれるが、(ア)でない場合は38.9%、その逆が13.1%である。

■ 考察

(イ)を選んで(ア)を選ばない誤答が38.9%であることから、誤答の原因として、「言葉のすぐ前にある言葉が詳しくする言葉である」と思い込んで「大きな」を選択したこと、修飾語が二つある場合や被修飾語と離れている場合などの学習に不慣れで、語と語の関係が捉えられないことが挙げられる。また、「公園の」の「の」は、「美しい」「青い」などの形容詞ではなく、連帯修飾語であるために修飾語だと分かりにくかったことも考えられる。

「その他」が11.4%であることから、設問文をよく読まずに二つを選択しなかったり、記号で解答しなかったりした可能性も考えられる。

■ 授業改善

- (1) 文の基本形は主語と述語でどんなに長い文でも主語と述語が書かれている。初めに述語はどれかを考えてから主語を見付ける。次に、主語を説明している言葉はどれか、述語を詳しく説明している言葉はどれかを考える。主語と述語を赤色、それらを説明している言葉は青色と識別すると文の構造を視覚的に捉えることができる。
- (2) 文章内容を理解するために、それぞれの文の中の語句の役割や、語句相互の関係を気付け、文の組み立てを理解することが大切であることを意識して授業を行う。主述の関係、修飾と被修飾の関係をはっきりさせたり、修飾語が複数ある文を取り上げたりして、「それが」「いつ」「どこで」「なにを」「どのように」「なぜ」などという文の構成について、初歩的な理解ができるようにする。
- (3) 主語と述語のみで構成された文に修飾語を加えて文を詳しくする学習を行う。修飾語の例を挙げてふさわしい語を選択させるなど、初歩的な活動を取り入れる。
- (4) 読む活動のみならず、書いたり、話したり聞いたりする活動の際にも、修飾語を意識させたり、修飾と被修飾の関係を考えさせたりするようにする。

【段落相互の関係を考える設問 大問3 (2) 基礎B 14.9%】

「かわいいわね」いう言葉だけでも、気持ちにはつたわりますし、「頭をなでる」という身ぶりだけでも、気持ちにはつたわります。□身ぶりと言葉がいっしょになると、「かわいいわね。」という気持ちが、より深くつたわると思いませんか。文章中の□に合う言葉を次から選び、記号で答えましょう。  
 ア また イ つまり ウ しかし エ あるいは

■ 結果

説明的な文章の空欄に接続語を当てはめる設問である。□を挟む二文がどのような関係かを考えて、それに見合う適切な接続語を選ぶ。正答はウの「しかし」である。通過率は、R1は9.7%、R2は7.6%で、R4・5は20%台であった。最多の誤答はア「また」の53.4%、無答の割合は1.2%であった。

■ 考察

前文の「言葉だけでも、身ぶりだけでも」と、後文の「身ぶりと言葉がいっしょになると」に着目すると、「だけでも→いっしょに」と変わっているために、前の内容と後の内容が反対であることが予想できる。次に、ア～エの四つの接続語のうち、「また」は並列、「つまり」は説明、「あるいは」は選択の意味の接続語であることから、逆接を表す接続語は「しかし」で、ウが正答であることを導き出せる。

並列や累加の接続語「また」を選んでしまった児童が非常に多かった。前の文も後の文も「気持ちがつたわる」という言葉が出てくるため、上記の「だけでも」という語に着目しなければ、どちらの文も「並列」であると捉えてしまいがちである。前後の文の関係をしっかりと理解せずに取り組んでいることが理由だと考えられる。

無答の割合が少ないことから、接続語を補う設問は、児童にとつては取り組みやすい学習だと分かる。

■ 授業改善

- (1) 接続語が表す意味がイメージできるように、記号で表して視覚化する。  
 ・順接 (それで・だから・すると) → ・逆接 (しかし・けれども・でも) ↔  
 ・並列累加 (また・そして・それから) + ・説明 (つまり・なぜなら・たとえば) =
- (2) 説明的な文章を学習するときに、接続語にサイドラインを引き、前後の文章から意味を考えさせ、上のような記号を教科書に書き込ませる。また、どのような接続語を使って説明しているのか、論理の展開を接続語から考えさせるようにする。
- (3) 接続語を使って文章や短文を書く機会を設け、文意や文脈に沿って適切に使えるようにする。



【語句の類別を理解する設問 大問2 (1) 基礎B 48.7%】

言葉进行分类しました。分類がちがっているのはどれですか。次から一つ選び、記号で答えましょう。(正答) エ 物語・読む

■ 結果

4つの選択肢があり、ア、イ、ウは、形容詞、動詞、接続詞など、同じ品詞の語句の組み合わせであるのに対して、エは名詞と動詞の語句の組み合わせである。記号の選択であるので、無答は0.9%であるが、通過率は47.2%である。段階別通過率は、R1=5.8%、R2=31.8%、R3=47.3%、R4=74.0%、R5=69.2%であった。他の設問の多くは、R4、R5の通過率が90%を超えているのに対し、本設問の通過率の低さが伺える。誤答は、ア(大きい・長い)が31.7%、イ(立つ・すわる)が10.7%、ウ(そして・けれども)は13.5%である。

■ 考察

誤答の中ではアが最も多く選択されている。その要因の一つとして、( )の中の二つの言葉の品詞の相違を区別する設問であるにもかかわらず、二つの言葉が反対の意味をもつかどうかで判断したと思われる。イの(立つ・すわる)は反対の動詞、ウ(そして・けれども)順接と逆接で反対の意味や働きをもつ接続詞である。ア(大きい・長い)は形容詞で意味が類似しており、反対の意味ではないことが容易に分かる。エ(物語・読む)かアか、どちらを選択するかを迷った児童もいたことが推察される。エにある「物語」が、選択肢に挙げられた語句の中で、唯一名詞だということを理解しているかどうかで正誤が分かれたのではないかと考える。言葉のきまわりを知っていると文章が正確に読めるだけでなく、深く読めるといふ実感を味わわせることが必要である。

■ 授業改善

- (1) 授業の中で、「ものの名前を表す言葉」「様子を表す言葉」「もの名前を修飾する言葉」「接続語」などの働きを指導し、文章の中で働きを取り上げる場を設けるとよい。また、言葉の働きや効果について、説明的な文章や文学的文章を読む学習で指導する機会を意識的に設けるとよい。そのことが読解指導で読みを深める手掛かりとなり、作文指導においてはより適切な表現の工夫にもつながる。
- (2) 典型的な文は主語、目的語、述語で構成され、名詞は主語、動詞は述語、形容詞は修飾語や述語に使われることを指導する。文を構成する要素としての語句の働きを意識せず読んだり書いたりしていることが多いため、教科書の単元の後に書かれている「言葉」の教材文を使って語句の働きを明確に捉えさせるようにする。

【場面の移り変わりを捉える設問 大問4 (1) 基礎C 55.5%】

この文章は、時に注目すると、大きく二つの場面に分けられます。後の場面はどこから始まりますか。初めの三字を書きぬきましょう。(正答) 次の日

■ 結果

設問の中に、「時に注目すると」という言葉が入っていることで、時間の経過が分かる言葉を探すことが必要である。「次の日」が時間の経過を表す言葉となり、時に注目した二つめの場面の始まりとなる。全体の通過率は55.5%で、無答は2.9%である。段階別では、R1=5.8%、R2=25.2%、R3=59.6%、R4=89.9%、R5=81.5%である。誤答として「お日様」を挙げ、「お日様は、ぼくの頭の真上にある。」が後の場面の始まりと捉えている例、問題用紙のページの切り替わり部分が大きく空いているために、「自転車の二人乗りは」が後の場面の始まりと捉えた「自転車」などが挙げられる。

■ 考察

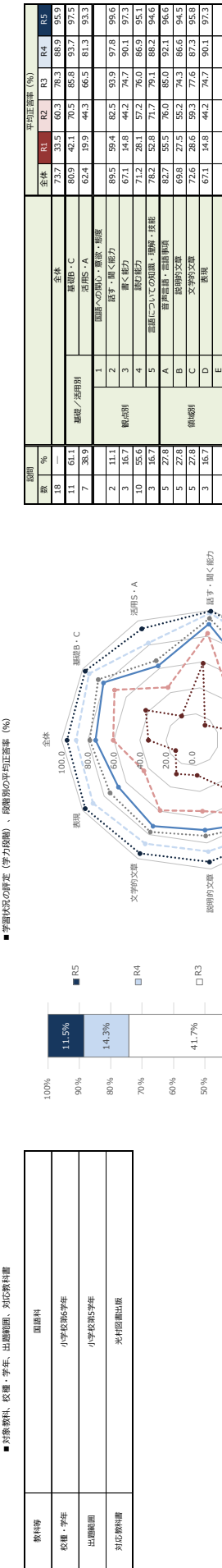
時間の経過が明確に分かる言葉は「次の日」が一番顕著であるにもかかわらず、全体の正答率が約50%である。「お日様」と答えた児童は、次の文「一日はやっと半分終わったところだ。あとの半分为・・・」という叙述を、時間の経過として着目したと考えられる。「時に注目して二つの場面に分ける」という条件に合う分け方をする場合、どの言葉に着目するか考えさせたい。また、教科書の教材文の中には、場面が分かれ目が数行空いていたりと、数字が付いていたいたりする場面がある。場面が分かれるところはスペースが空いているという意識をもっている児童が、「自転車の」を後半の場面の始まりとして選んだと考えられる。

■ 授業改善

- (1) 物語を読む時は、初めに物語の設定を捉える指導をする。登場人物や中心人物は誰か、いつ・どこの話か、何が大きく変わっていくか、物語の終わり方はどんなかなどについて、自分の力で読み取る視点として身に付けさせたい。場面による時間の経過や場所の移動などとともに、中心人物の会話文や行動から、心情と心情の変化を想像したり考えたりして、物語を深く読む手掛かりとさせる。
- (2) 場面に書かれている内容を理解する指導を丁寧に行う。場面は、時間の経過や場所の移動、登場人物の変化や人物の周りで起こる出来事などによって分けられる。場面が描かれている内容を十分に理解することによって、場面が移り変わる場所や、なぜそこで転換するのかという根拠が明らかになる。また、場面の展開を理解することは、物語の構成や構造をつかむことにつながるだけでなく、作者が物語を書いた意図や主題を捉えることにもつながっていく。

# 小学校第6学年

| 説明番号 | 出題 |                |       |    | 学習目標の観点 |    |    |    |    | 相補的学習の領域      |               |               |               |               | 配分            |               |               |               |               |               |               |               |               |               |               |               |               |               |               |               |               |               |               |               |               |               |               |               |               |               |               |               |               |               |               |               |               |               |               |               |               |
|------|----|----------------|-------|----|---------|----|----|----|----|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
|      | 内容 | 解答形式           | 設問レベル | 出題 | 1       | 2  | 3  | 4  | 5  | A             | B             | C             | D             | E             | 1             | 2             | 3             | 4             | 5             | 6             | 7             | 8             | 9             | 10            | 11            | 12            | 13            | 14            | 15            | 16            | 17            | 18            | 19            | 20            | 21            | 22            | 23            | 24            | 25            | 26            | 27            | 28            | 29            | 30            |               |               |               |               |               |               |               |
| 1    | 1  | 読み手の感情を捉えて書くこと | 選択    | 選択 | 選択      | 選択 | 選択 | 選択 | 選択 | 読者の感情を捉えて書くこと | 読者の感情を捉えて書くこと | 読者の感情を捉えて書くこと | 読者の感情を捉えて書くこと | 読者の感情を捉えて書くこと | 読者の感情を捉えて書くこと | 読者の感情を捉えて書くこと | 読者の感情を捉えて書くこと | 読者の感情を捉えて書くこと | 読者の感情を捉えて書くこと | 読者の感情を捉えて書くこと | 読者の感情を捉えて書くこと | 読者の感情を捉えて書くこと | 読者の感情を捉えて書くこと | 読者の感情を捉えて書くこと | 読者の感情を捉えて書くこと | 読者の感情を捉えて書くこと | 読者の感情を捉えて書くこと | 読者の感情を捉えて書くこと | 読者の感情を捉えて書くこと | 読者の感情を捉えて書くこと | 読者の感情を捉えて書くこと | 読者の感情を捉えて書くこと | 読者の感情を捉えて書くこと | 読者の感情を捉えて書くこと | 読者の感情を捉えて書くこと | 読者の感情を捉えて書くこと | 読者の感情を捉えて書くこと | 読者の感情を捉えて書くこと | 読者の感情を捉えて書くこと | 読者の感情を捉えて書くこと | 読者の感情を捉えて書くこと | 読者の感情を捉えて書くこと | 読者の感情を捉えて書くこと | 読者の感情を捉えて書くこと | 読者の感情を捉えて書くこと | 読者の感情を捉えて書くこと | 読者の感情を捉えて書くこと | 読者の感情を捉えて書くこと | 読者の感情を捉えて書くこと | 読者の感情を捉えて書くこと | 読者の感情を捉えて書くこと |



| 説明   | 学習状況の推移 (学力傾向) |       |       |       |      |
|------|----------------|-------|-------|-------|------|
|      | R1             | R2    | R3    | R4    | R5   |
| 国語   | 11.5%          | 14.3% | 41.7% | 24.0% | 8.4% |
| 算数   | 11.5%          | 14.3% | 41.7% | 24.0% | 8.4% |
| 理科   | 11.5%          | 14.3% | 41.7% | 24.0% | 8.4% |
| 社会   | 11.5%          | 14.3% | 41.7% | 24.0% | 8.4% |
| 英語   | 11.5%          | 14.3% | 41.7% | 24.0% | 8.4% |
| 音楽   | 11.5%          | 14.3% | 41.7% | 24.0% | 8.4% |
| 美術   | 11.5%          | 14.3% | 41.7% | 24.0% | 8.4% |
| 体育   | 11.5%          | 14.3% | 41.7% | 24.0% | 8.4% |
| 保健体育 | 11.5%          | 14.3% | 41.7% | 24.0% | 8.4% |
| 総合   | 11.5%          | 14.3% | 41.7% | 24.0% | 8.4% |

【日常よく使われる敬語の使い方を考える設問 大問2 (3) 基礎C 46.8%】

「言う」のけんじょう語はどれですか。次から一つ選び、記号で答えましょう。  
ア おっしゃる イ 言います ウ 申し上げます

■ 結果

「言う」の謙譲語は「申し上げます」なので、正答はウである。無答は0%、誤答であるアは46.8%、イは10.3%、その他が0.5%という結果だった。

段階ごとの通過率は、R1=20.9%、R2=31.4%、R3=44.0%、R4=66.5%、R5=84.1%であり、他の設問に比べて段階差が大きい。昨年度27年度同趣旨の設問においても同様の結果が見られた。

■ 考察

正答「ウ 申し上げます」の通過率が46.8%と基礎Cレベルであつても過半数に届かないことから、謙譲語の習得が難しいことが分かる。誤答では尊敬語の「ア おっしゃる」の誤答率が46.8%で最も多く、丁寧語の「イ 言います」が10.3%だった。これらのことから、丁寧語はある程度判別できても尊敬語と謙譲語の区別ができていないことが分かる。日常生活の中で、尊敬語を使う機会はある程度あると思われるが、謙譲語を使うような機会はめったになく、使い慣れていないと思われる。

■ 授業改善

- (1) 授業中の言葉遣いや改まった場、年長の人などを相手にして話す時に、語尾に「です、ます」を付けることは児童にとつて日常化しており、それが「丁寧語」であることは認識しやすい。そのため、授業で取り扱うときには、「尊敬語」と「謙譲語」を重点的に取り扱うとよい。二つの違いを言葉で説明しても理解しにくい。尊敬語は「相手を高める言葉」、謙譲語は「自分がへりくだる言葉」と端的な言葉で表したり、自分と相手を図式化して視覚的に捉えさせたりするとイメージしやすくなり、理解が容易になる。
- (2) 「行く」「見る」が尊敬語だと「いらっしゃる」「ご覧になる」、謙譲語だと「うかがう」「拝見する」となるように、特別な言い方に変化する言葉は数が決まっている。頻度の高い言葉を調べて表に整理しておく。それらの言葉を使う場を設け、実際に使ってコミュニケーションすることによって、尊敬語と謙譲語の違いがより明確に理解できるようになる。
- (3) 分類表や文例などを掲示し、知識として「知る」ことに終わらず、自身の日常生活の中で活用できるようにする。授業改善はもちろん、日常生活における言語活動の中で、学年を問わず継続し、意識的に指導を行う必要がある。

【文章の要旨を捉える設問 大問3 (2) 基礎B 60.7%】

上の文章で筆者が最も伝えたいことはどんなことですか。次から一つ選び、記号で答えましょう。(正答) エ

■ 結果

全体の通過率が60.7%であつた。段階別に見ると、R5=93.6%、R4=86.6%、R3=65.4%、R2=37.3%、R1=16.1%であり、特にR3とそれ以下の段階で差が大きくなる。第5・6学年の指導事項である「筆者の意見の中心となる事柄を押さえること」が十分に定着していないことが分かる。誤答を見ると、最多のウは31.0%であり、次いでアが8.1%、イが2.6%となっている。無答は選択問題ということもあり1%未満であつた。

■ 考察

「終わり」の段落を読んで、筆者の要旨を捉えて要約する一和紙を用いることで豊かな心の持ち方を大切にしてきたこと一設問である。アとイは和紙の使われ方だけが書かれているので誤答である。ウの誤答が多い理由として、ウもエと同じように本文の「終わり」の段落に書かれているために、どちらも筆者の要旨として捉えたのではないかと考えられる。しかし、ウは「和紙の和」の言葉の意味を説明しているだけで考えではない。文中の「このように」という言葉があるために、この語の後に筆者の考えが書かれていることが分かる。したがって、エが正答となる。

■ 授業改善

- 説明的な文章では、文章の内容を理解するとともに、文章をどのように読めばよいのか、下記のような「読み方」を指導することが重要である。
- (1) 典型的な説明的文章は、「初め・中・終わり」の三部構成—「初め」は話題提示、「中」は具体的な説明、「終わり」は筆者の考え—で書かれていること。
  - (2) 事実の文章と意見の文章を読み分けること。意見の文章と事実の文を色で区別すると視覚的にも捉えやすいこと。また、抽象的な表現と具体的な表現を区別して読むと事実と意見の違いが分かりやすく、意見は抽象的に書かれていて、事実は事例・エピソード・引用・経験など具体的に書かれていることが多いこと。
  - (3) 段落ごとに小見出しを付けたリ、要点をまとめたりして内容を把握すること。
  - (4) 接続語や文末表現に注意して読むと段落相互の関係や論理の展開の仕方をつかむことができること。
  - (5) 文章中に出てくるキーワードを押さえること。
  - (6) 題名を読めば、話題や筆者の考えが予想できること。





### 【敬語を正しく使うこと 大問2 (3) 基礎C 34.2%】

次のア～エの文の中で、使うべき敬語が正しく使われていない文はどれですか。一つ選び、記号で答えなさい。

(正答) エ 先生から聞いた話をお伝えします。

#### ■ 結果

全体の通過率は34.2%であった。段階別に見ると R1=17.9%、R2=26.4%、R3=32.0%、R4=40.5%、R5=66.1%であった。基礎Cの設問としては R5 の通過率が低く、さらに R5 とそれ以下の段階の差が大きい。第5・6学年の指導事項である「日常よく使われる敬語の使い方に慣れること」が十分に定着していないことが分かる。誤答をみると、最多のイは43.7%であり、次いでウが11.3%、アが9.1%であった。無答・その他は選択問題ということもあり0.7%であった。

#### ■ 考察

エは「先生から聞いた話をお伝えします。」となっており、本来ならば「聞く」ではなく「伺う」という謙譲語を使用すべきであることから、エが正答となる。誤答の中で最多であったイは、「お伝えした時間に、あなたのお宅へ参ります。」となっている。普段聞き慣れない「参ります」という謙譲語が使用されていることから、正しく使われていないと判断したのではないかと考える。これらのことから、敬語の中でも特に「謙譲語」に関する理解が不十分であると捉える。

#### ■ 授業改善

- (1) 敬語については、日常生活の中で「誰が」「誰に対して」「どんなときに」使っていいのかに気付けさせることが大切である。例えば、様々な日常会話で敬語が使用されている例を示し、どのような意味を持っているのかを考えさせる。
- (2) 敬語の使い方に慣れることができる活動を取り入れる。様々な場面を設定し、その際に適切な敬語が使えるように、ロールプレイも効果的である。
- (3) 具体物を使って視覚化することも効果的である。例えば、①「丁寧語」「尊敬語」「謙譲語」に、それぞれ色を変えてサイドラインを引かせて意識させる。②敬語が誰から誰に向けて使われているのか、敬意の方向を矢印で示す。
- (4) 謙譲語の指導法については、日常生活において比較的よく使われるものを一覧表にし、グループごとにそれらを使用したシナリオを作成し、実演させることも効果的である。シナリオを作成する際には必ずテーマを設定し、それに沿ったものを作成させる。また、違った形の謙譲語を三つ以上は使用すること、といった条件を設けることも必要である。

### 【文章全体の構成を把握すること 大問3 (1) 基礎C 43.8%】

この文章を、次のような見出しをつけて大きく四つに分けました。イとウの項目の中の、□に入る段落番号を、それぞれ書きなさい。

(正答) イ 9 ウ 10 ※両方できて正解

#### ■ 結果

答え方は、「イ 5～□、ウ □～16」の空欄に数字を書き込むだけなので、無答は、ごくわずかである。どちらか一方だけを答えたり、一方のみが間違っていたりした場合は正答とはならない。誤答として、「イ」のみは21.1%、「ウ」のみは1.4%であり、「どちらも間違っていた」が31.9%と最も多い。各段階の通過率は、R1=12.8%、R2=22.1%、R3=42.4%、R4=66.2%、R5=85.5%であり、それぞれの段階差が約20ポイントと大きい。

#### ■ 考察

誤答例として、10段落と11段落で内容を分けている生徒が多かった。また、少数だが、同じ数字を両方の解答欄に答えたり、9段落と11段落を入れていて10段落を飛ばしていたりしている。

正答を導くためには、文章の内容と、10段落目の冒頭「それでは」という接続詞や文末表現「～してはどうだろうか」という言葉を基に、10段落から「知能」について述べられていることを判断しなくてはならない。しかし、「知能」というキーワードが出てくるのが11段落のため、ここで段落を分けると判断したことが誤答の要因である。

説明的文章を指導する際、各段落の内容理解だけに留まらず、段落と段落の関係や文章全体の構成や展開、表現に着目して文章を読み直し、文章の特徴を捉えられるようにすることが必要である。

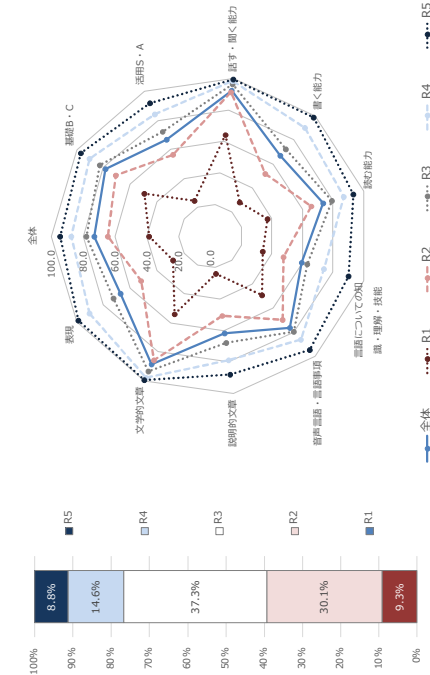
#### ■ 授業改善

- (1) 接続詞や指示語の働きに着目し、段落内の意味や働きだけでなく、段落ごとの働きを捉えるようにする。
- (2) 段落の要点をつかみ、小見出しを付けるようにする。1段落を10字程度でまとめると、条件を付けることで要点の整理の仕方が明確になる。そのうえで、付けた小見出しを基に、文章全体の構成が分かるように整理させる。
- (3) 段落には、「話題提示・問い、答え・例示・引用・根拠、主張」等がある。段落がどれにあたるか前後の関係を踏まえて考えさせる。全ての段落で行わなくとも、特徴的な段落を幾つか取り上げて考えさせるだけでもよい。

# 中学校第2学年

| 授業番号 | 出題 |    |      |       |   | 学習目標の観点 |   |   |   |   | 相関性の程度 |   |   |   |   | 出題  |         |         |         |  |
|------|----|----|------|-------|---|---------|---|---|---|---|--------|---|---|---|---|-----|---------|---------|---------|--|
|      | 内容 | 形式 | 解答形式 | 設問レベル |   | 1       | 2 | 3 | 4 | 5 | A      | B | C | D | E | (動) | 知識率 (%) | 技能率 (%) | 態度率 (%) |  |
| 1    | 1  | 1  | 1    | 1     | 1 | 1       | 1 | 1 | 1 | 1 | 1      | 1 | 1 | 1 | 1 | 1   | 1       | 1       | 1       |  |
| 2    | 1  | 2  | 1    | 1     | 1 | 1       | 1 | 1 | 1 | 1 | 1      | 1 | 1 | 1 | 1 | 1   | 1       | 1       | 1       |  |
| 3    | 1  | 1  | 1    | 1     | 1 | 1       | 1 | 1 | 1 | 1 | 1      | 1 | 1 | 1 | 1 | 1   | 1       | 1       | 1       |  |
| 4    | 1  | 1  | 1    | 1     | 1 | 1       | 1 | 1 | 1 | 1 | 1      | 1 | 1 | 1 | 1 | 1   | 1       | 1       | 1       |  |
| 5    | 1  | 1  | 1    | 1     | 1 | 1       | 1 | 1 | 1 | 1 | 1      | 1 | 1 | 1 | 1 | 1   | 1       | 1       | 1       |  |
| 6    | 1  | 1  | 1    | 1     | 1 | 1       | 1 | 1 | 1 | 1 | 1      | 1 | 1 | 1 | 1 | 1   | 1       | 1       | 1       |  |
| 7    | 1  | 1  | 1    | 1     | 1 | 1       | 1 | 1 | 1 | 1 | 1      | 1 | 1 | 1 | 1 | 1   | 1       | 1       | 1       |  |
| 8    | 1  | 1  | 1    | 1     | 1 | 1       | 1 | 1 | 1 | 1 | 1      | 1 | 1 | 1 | 1 | 1   | 1       | 1       | 1       |  |
| 9    | 1  | 1  | 1    | 1     | 1 | 1       | 1 | 1 | 1 | 1 | 1      | 1 | 1 | 1 | 1 | 1   | 1       | 1       | 1       |  |
| 10   | 1  | 1  | 1    | 1     | 1 | 1       | 1 | 1 | 1 | 1 | 1      | 1 | 1 | 1 | 1 | 1   | 1       | 1       | 1       |  |
| 11   | 1  | 1  | 1    | 1     | 1 | 1       | 1 | 1 | 1 | 1 | 1      | 1 | 1 | 1 | 1 | 1   | 1       | 1       | 1       |  |
| 12   | 1  | 1  | 1    | 1     | 1 | 1       | 1 | 1 | 1 | 1 | 1      | 1 | 1 | 1 | 1 | 1   | 1       | 1       | 1       |  |
| 13   | 1  | 1  | 1    | 1     | 1 | 1       | 1 | 1 | 1 | 1 | 1      | 1 | 1 | 1 | 1 | 1   | 1       | 1       | 1       |  |
| 14   | 1  | 1  | 1    | 1     | 1 | 1       | 1 | 1 | 1 | 1 | 1      | 1 | 1 | 1 | 1 | 1   | 1       | 1       | 1       |  |
| 15   | 1  | 1  | 1    | 1     | 1 | 1       | 1 | 1 | 1 | 1 | 1      | 1 | 1 | 1 | 1 | 1   | 1       | 1       | 1       |  |
| 16   | 1  | 1  | 1    | 1     | 1 | 1       | 1 | 1 | 1 | 1 | 1      | 1 | 1 | 1 | 1 | 1   | 1       | 1       | 1       |  |
| 17   | 1  | 1  | 1    | 1     | 1 | 1       | 1 | 1 | 1 | 1 | 1      | 1 | 1 | 1 | 1 | 1   | 1       | 1       | 1       |  |
| 18   |    |    |      |       |   |         |   |   |   |   |        |   |   |   |   |     |         |         |         |  |
| 19   |    |    |      |       |   |         |   |   |   |   |        |   |   |   |   |     |         |         |         |  |
| 20   |    |    |      |       |   |         |   |   |   |   |        |   |   |   |   |     |         |         |         |  |
| 21   |    |    |      |       |   |         |   |   |   |   |        |   |   |   |   |     |         |         |         |  |
| 22   |    |    |      |       |   |         |   |   |   |   |        |   |   |   |   |     |         |         |         |  |
| 23   |    |    |      |       |   |         |   |   |   |   |        |   |   |   |   |     |         |         |         |  |
| 24   |    |    |      |       |   |         |   |   |   |   |        |   |   |   |   |     |         |         |         |  |
| 25   |    |    |      |       |   |         |   |   |   |   |        |   |   |   |   |     |         |         |         |  |
| 26   |    |    |      |       |   |         |   |   |   |   |        |   |   |   |   |     |         |         |         |  |
| 27   |    |    |      |       |   |         |   |   |   |   |        |   |   |   |   |     |         |         |         |  |
| 28   |    |    |      |       |   |         |   |   |   |   |        |   |   |   |   |     |         |         |         |  |
| 29   |    |    |      |       |   |         |   |   |   |   |        |   |   |   |   |     |         |         |         |  |
| 30   |    |    |      |       |   |         |   |   |   |   |        |   |   |   |   |     |         |         |         |  |

■ 学習状況の分布 (学力段階)、段階別の平均正答率 (%)



■ 対象教科、収録・学年、出題範囲、対応教科目

| 教科書   | 国語科     |
|-------|---------|
| 収録・学年 | 中学校第2学年 |
| 出題範囲  | 中学校第2学年 |
| 対応教科書 | 光村図書出版  |

| 学習状況の分布 (学力段階) |       |       |       |      |
|----------------|-------|-------|-------|------|
| R1             | R2    | R3    | R4    | R5   |
| 9.3%           | 30.1% | 37.3% | 14.6% | 8.8% |

| 学習状況の分布 (学力段階) |   |      |  |  |
|----------------|---|------|--|--|
| S              | 3 | 18.8 |  |  |
| A              | 4 | 25.0 |  |  |
| B              | 5 | 31.3 |  |  |
| C              | 4 | 25.0 |  |  |
| D              | 3 | 18.8 |  |  |
| E              | 2 | 12.5 |  |  |

| 学習状況の分布 (学力段階) |     |     |     |     |
|----------------|-----|-----|-----|-----|
| 読解力            | 読解力 | 読解力 | 読解力 | 読解力 |
| 読解力            | 読解力 | 読解力 | 読解力 | 読解力 |
| 読解力            | 読解力 | 読解力 | 読解力 | 読解力 |
| 読解力            | 読解力 | 読解力 | 読解力 | 読解力 |
| 読解力            | 読解力 | 読解力 | 読解力 | 読解力 |

【イントネーションの違いに気が付くこと 大問2 (1) 基礎C 42.2%】

太郎さんの会話で最後のイントネーションを上げて読むのは、A・Bのどちらですか。記号で答えなさい。(正答) A

■ 結果

無答率は全体で0.6%と低いものの、半数以上が誤答のBを選んでおり、全体の通過率は42.2%である。段階別に見ると R1=26.2%、R2=31.1%、R3=39.9%であり、他の段階間と比較して差が小さい。また、R4=56.8%であり、他の基礎問題の通過率と比べると低い。R5=82.3%であり、R4とは30ポイント近い差がある。

■ 考察

昨年度の調査でも同様の「イントネーション」を問う設問の通過率が低かった。原因の一つは、「イントネーション」に対する意識の低さではないか。最近、教材文の音読や日常会話の際、イントネーションを意識せず、平坦に発声する生徒が多い。また、「イントネーション」という言葉自体の理解が不十分な生徒もいる。

しかし、通過率の低さからそれだけが原因とは考えにくい。今年度は、昨年度より設問が具体的になり、解答の形式が二択一である。「イントネーションを上げて読む」のが疑問の場合であることは周知されているはずだが、全体として半数以上が誤答であり、R4に至っても56.8%の通過率である。これは、「太郎さんの会話で最後のイントネーションを上げて読む」という設問文から、花子さんの言葉も含まれると考へ、最後に疑問となつているBを選んだことも原因の一つと考えられる。つまり、問題文の理解が不十分なために起きた誤答である。R5の生徒は、「太郎さんの会話で」という表現から、「太郎さん」の言葉を考えれば良いという設問の趣旨を十分理解する力があつたため、8割以上が正答していると考えられる。

■ 授業改善

- (1) アクセント、イントネーション等の基礎的な用語を知識として押さえ、基本的な音声の働きや仕組みの理解が深まるよう、時間を設けて指導する。
- (2) 授業時に文章を声に出して読む機会を多く取り入れる。読む際には、意味や感情を意識した音読をさせる。同じせりふに対して「悲しい」「嬉しい」「嬉しい」などの気持ちの違いを音声の工夫で表現させるなど、様々な条件を付けて発表させる指導をしていくことも効果的である。
- (3) 日常の授業や生活の中で、話を聞いたたり、文章を読んだりするときに、内容を理解するだけでなく、表現の仕方からも話し手や書き手の意図を理解することを意識させる。

【文章全体における語句の役割を捉えること 大問3 (1) 基礎C 62.5%】

「わかちあい」とは、どのようなことですか。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。(正答) ウ 日常の中で、多くの人たちと感情を理解しあうこと。

■ 結果

全体の通過率は62.5%であった。段階別に見ると R1=31.4%、R2=44.8%、R3=69.4%、R4=84.4%、R5=91.2%であり、R1と2が半数を超えていない。無答は、R1以外の段階には全く見られないものの、R1だけは2.6%である。正答はウだが、誤答となるア、イ、エの選択率はそれぞれ10%台であり、正答以外はほぼ均等である。

■ 考察

「わかちあい」が「わかちあうこと」「コミュニケーション」と同じ意味で使われていることが理解できていないと、正答できない設問である。筆者は言葉置き換えながら論を進めていることに気が付き、そのうえで文章を読み取る力が必要となる。置き換えていることが理解できていないと、この文章の読解は難しい。同じ意味で使われていることは、1段落や4段落で読み取ることができる。その際重要になるのが、接続詞「つまり」の役割である。「つまり」の用法を理解し、意識して読めば、「わかちあい」と「わかちあうこと・コミュニケーション」が同じ意味で使われていることは容易に読み取れる。それが理解できれば、正答を選ぶのも難しいことではない。R3以上の通過率は7割以上であることから、この段階の生徒の多くには基本的な読む力が身に付いていると考えられる。R1と2の通過率を見ると、説明的文章を読む基本である「接続詞を意識して読む」ことができている生徒が多いと考えられる。また、「わかちあい」という言葉そのものが日常生活であまり使われない言葉であり、なじみが薄いのも誤答の原因であると考えられる。

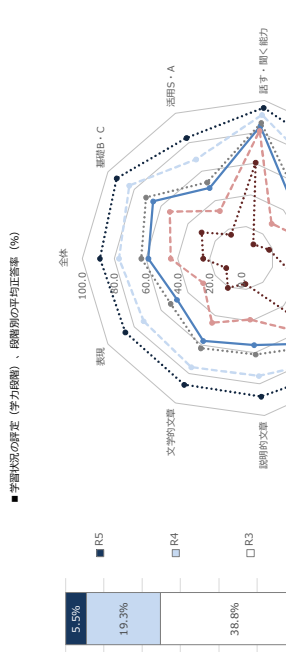
■ 授業改善

- (1) 「接続詞を意識して読む」ことを理解させる。接続詞のそれぞれの働きと文章の中の役割を確認しながら読むよう指導する。特に、「しかし」などの逆接の接続詞や、結論を表すことの多い「つまり」の役割は文章読解において重要であり、知識として定着させる必要がある。
- (2) 「注意する語句」のような言葉の意味についての学習を継続して行う。その際に、言葉の意味だけでなく、文章中の使われ方、短文作りなどを通して日常的に使用できるように指導していく。

# 中学校第3学年

| 授業番号 | 出題 |   |   |   |   |       |       |    |    |    | 出題内容の領域 |    |         |   |   |    |   |         |      |      | 出題   |      |       |      |      |      |      |     |
|------|----|---|---|---|---|-------|-------|----|----|----|---------|----|---------|---|---|----|---|---------|------|------|------|------|-------|------|------|------|------|-----|
|      | 内容 |   |   |   |   | 設問レベル |       |    |    |    | 学習目標の観点 |    | 相関領域の観点 |   |   | 知識 |   | 難易度 (%) |      |      |      |      |       |      |      |      |      |     |
| 種    | 大  | 小 | 簡 | 易 | 形式  | 解答形式  | 設問レベル | 1  | 2  | 3  | 4       | 5  | A       | B | C | D  | E | 全体      | R1   | R2   | R3   | R4   | R5    |      |      |      |      |     |
| 1    | 1  | 1 | 1 | 1 | 読解の基礎、展開に注意して書くこと                         | 選択    | 選択    | 選択 | 選択 | 選択 | 選択      | 選択 | ■       | ■ | ■ | ■  | ■ | 71.3    | 43.5 | 66.1 | 73.5 | 82.8 | 91.2  | 0.4  | 4.3  | 0.0  | 0.0  | 0.0 |
| 2    | 1  | 2 | 1 | 1 | 論理的な構成、展開に注意し、自分の考えと比較すること                | 選択    | 選択    | 選択 | 選択 | 選択 | 選択      | 選択 | ■       | ■ | ■ | ■  | ■ | 95.1    | 78.3 | 93.0 | 98.5 | 99.5 | 100.0 | 1.4  | 8.2  | 1.1  | 0.6  | 0.0 |
| 3    | 1  | 1 | 1 | 1 | 展開の順序や多角的な視点を基に適切な形で書くこと                  | 選択    | 選択    | 選択 | 選択 | 選択 | 選択      | 選択 | ■       | ■ | ■ | ■  | ■ | 72.9    | 45.9 | 63.2 | 75.5 | 89.0 | 93.0  | 0.3  | 3.4  | 0.0  | 0.0  | 0.0 |
| 4    | 1  | 2 | 1 | 1 | 展開の順序について説明すること                           | 選択    | 選択    | 選択 | 選択 | 選択 | 選択      | 選択 | ■       | ■ | ■ | ■  | ■ | 44.0    | 18.8 | 27.3 | 44.5 | 67.3 | 85.1  | 0.8  | 4.8  | 0.5  | 0.4  | 0.0 |
| 5    | 1  | 1 | 1 | 1 | 展開の順序を基に適切な形で書くこと                         | 選択    | 選択    | 選択 | 選択 | 選択 | 選択      | 選択 | ■       | ■ | ■ | ■  | ■ | 70.2    | 26.1 | 53.3 | 77.9 | 92.3 | 99.1  | 0.7  | 6.8  | 0.0  | 0.1  | 0.0 |
| 6    | 1  | 2 | 1 | 1 | 文章全体と部分の関係を明確に記述すること                      | 選択    | 選択    | 選択 | 選択 | 選択 | 選択      | 選択 | ■       | ■ | ■ | ■  | ■ | 62.2    | 20.8 | 46.7 | 69.0 | 82.0 | 93.9  | 0.8  | 7.7  | 0.0  | 0.1  | 0.0 |
| 7    | 1  | 3 | 1 | 1 | 自分の考えを基に適切な形で書くこと                         | 選択    | 選択    | 選択 | 選択 | 選択 | 選択      | 選択 | ■       | ■ | ■ | ■  | ■ | 65.3    | 21.3 | 48.0 | 74.9 | 85.3 | 90.4  | 1.4  | 9.7  | 0.7  | 0.6  | 0.0 |
| 8    | 1  | 3 | 4 | 1 | 文章の構成、展開・視座の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを基に書くこと   | 記述    | 記述    | 記述 | 記述 | 記述 | 記述      | 記述 | ■       | ■ | ■ | ■  | ■ | 16.9    | 1.0  | 6.0  | 16.7 | 27.3 | 62.3  | 17.4 | 35.6 | 23.3 | 12.2 | 4.8 |
| 9    | 1  | 3 | 4 | 1 | 文章に表れている自分の考えや考え方を知識や体験と関連付け、自分の考えを基に書くこと | 記述    | 記述    | 記述 | 記述 | 記述 | 記述      | 記述 | ■       | ■ | ■ | ■  | ■ | 60.4    | 13.5 | 40.7 | 68.2 | 86.0 | 94.7  | 14.9 | 59.0 | 24.5 | 6.8  | 1.0 |
| 10   | 1  | 4 | 1 | 1 | 登場人物の行動の動機を内容の理解に基いて記述すること                | 選択    | 選択    | 選択 | 選択 | 選択 | 選択      | 選択 | ■       | ■ | ■ | ■  | ■ | 80.8    | 39.6 | 72.3 | 89.2 | 92.0 | 97.4  | 1.4  | 13.0 | 0.2  | 0.0  | 0.0 |
| 11   | 1  | 4 | 2 | 1 | 登場人物の行動の動機を内容の理解に基いて記述すること                | 選択    | 選択    | 選択 | 選択 | 選択 | 選択      | 選択 | ■       | ■ | ■ | ■  | ■ | 55.4    | 26.6 | 46.3 | 55.0 | 73.8 | 90.4  | 1.4  | 13.5 | 0.2  | 0.0  | 0.0 |
| 12   | 1  | 4 | 2 | 1 | 文章に表れている自分の考えや考え方を知識や体験と関連付け、自分の考えを基に書くこと | 記述    | 記述    | 記述 | 記述 | 記述 | 記述      | 記述 | ■       | ■ | ■ | ■  | ■ | 31.2    | 3.4  | 12.8 | 34.8 | 51.5 | 73.7  | 19.4 | 89.5 | 27.7 | 12.8 | 6.0 |
| 13   | 1  | 4 | 2 | 1 | 文章に表れている自分の考えや考え方を知識や体験と関連付け、自分の考えを基に書くこと | 記述    | 記述    | 記述 | 記述 | 記述 | 記述      | 記述 | ■       | ■ | ■ | ■  | ■ | 60.0    | 12.1 | 47.6 | 69.3 | 85.3 | 87.7  | 14.0 | 52.2 | 20.1 | 7.5  | 2.0 |
| 14   | 1  | 4 | 2 | 1 | 登場人物の行動の動機を内容の理解に基いて記述すること                | 選択    | 選択    | 選択 | 選択 | 選択 | 選択      | 選択 | ■       | ■ | ■ | ■  | ■ | 72.5    | 27.5 | 59.2 | 79.9 | 92.0 | 98.2  | 2.2  | 14.5 | 2.2  | 0.4  | 0.0 |
| 15   | 1  | 4 | 2 | 1 | 登場人物の行動の動機を内容の理解に基いて記述すること                | 選択    | 選択    | 選択 | 選択 | 選択 | 選択      | 選択 | ■       | ■ | ■ | ■  | ■ | 49.5    | 3.9  | 16.5 | 50.0 | 73.5 | 93.0  | 8.0  | 38.2 | 11.4 | 2.6  | 1.0 |
| 16   | 1  | 5 | 3 | 1 | 重要な場面を、簡潔に記述し、自分の考えを基に書くこと                | 記述    | 記述    | 記述 | 記述 | 記述 | 記述      | 記述 | ■       | ■ | ■ | ■  | ■ | 28.1    | 2.9  | 10.3 | 28.1 | 54.0 | 68.4  | 27.6 | 68.1 | 43.8 | 20.8 | 5.5 |
| 17   |    |   |   |   |   |       |       |    |    |    |         |    |         |   |   |    |   |         |      |      |      |      |       |      |      |      |      |     |
| 18   |    |   |   |   |   |       |       |    |    |    |         |    |         |   |   |    |   |         |      |      |      |      |       |      |      |      |      |     |
| 19   |    |   |   |   |   |       |       |    |    |    |         |    |         |   |   |    |   |         |      |      |      |      |       |      |      |      |      |     |
| 20   |    |   |   |   |   |       |       |    |    |    |         |    |         |   |   |    |   |         |      |      |      |      |       |      |      |      |      |     |
| 21   |    |   |   |   |   |       |       |    |    |    |         |    |         |   |   |    |   |         |      |      |      |      |       |      |      |      |      |     |
| 22   |    |   |   |   |   |       |       |    |    |    |         |    |         |   |   |    |   |         |      |      |      |      |       |      |      |      |      |     |
| 23   |    |   |   |   |   |       |       |    |    |    |         |    |         |   |   |    |   |         |      |      |      |      |       |      |      |      |      |     |
| 24   |    |   |   |   |   |       |       |    |    |    |         |    |         |   |   |    |   |         |      |      |      |      |       |      |      |      |      |     |
| 25   |    |   |   |   |   |       |       |    |    |    |         |    |         |   |   |    |   |         |      |      |      |      |       |      |      |      |      |     |
| 26   |    |   |   |   |   |       |       |    |    |    |         |    |         |   |   |    |   |         |      |      |      |      |       |      |      |      |      |     |
| 27   |    |   |   |   |   |       |       |    |    |    |         |    |         |   |   |    |   |         |      |      |      |      |       |      |      |      |      |     |
| 28   |    |   |   |   |   |       |       |    |    |    |         |    |         |   |   |    |   |         |      |      |      |      |       |      |      |      |      |     |
| 29   |    |   |   |   |   |       |       |    |    |    |         |    |         |   |   |    |   |         |      |      |      |      |       |      |      |      |      |     |
| 30   |    |   |   |   |   |       |       |    |    |    |         |    |         |   |   |    |   |         |      |      |      |      |       |      |      |      |      |     |

| 期間 | 割合   | 平均正答率 (%) |
|----|------|-----------|
| 16 | 1    | 58.3      |
| 9  | 56.3 | 66.1      |
| 7  | 43.8 | 48.3      |
| 2  | 12.5 | 83.7      |
| 3  | 18.8 | 46.0      |
| 9  | 56.3 | 56.0      |
| 2  | 12.5 | 58.5      |
| 4  | 25.0 | 71.1      |
| 5  | 31.3 | 55.0      |
| 4  | 25.0 | 57.4      |
| 3  | 18.8 | 48.0      |



| 教科書     | 国語科     |
|---------|---------|
| 中学校第3学年 | 中学校第3学年 |
| 出題範囲    | 中学校第3学年 |
| 対応教科書   | 光村図書出版  |

| レベル | S    | 3 | 18.8 |
|-----|------|---|------|
| 説明  | A    | 4 | 25.0 |
| 基礎  | B    | 5 | 31.3 |
|     | C    | 4 | 25.0 |
| 出題  | 難易   | 9 | 56.3 |
|     | 記述   | 3 | 18.8 |
|     | 自由記述 | 4 | 25.0 |
|     | 選択   | 7 | 43.8 |
|     | 記述   | 3 | 18.8 |
|     | 難易条件 | 6 | 37.5 |

| 学習状況の概要 (学力段階) | R1    | R2    | R3    | R4    | R5   |
|----------------|-------|-------|-------|-------|------|
| 全体             | 10.0% | 26.4% | 38.8% | 19.3% | 5.5% |

【活用する自立語・付属語を押さえ、単語を分類すること 大問2 (2) 基礎C 44.0%】

次の文から、「動詞・形容詞・助動詞」をそれぞれ抜き出したものとして正しいものをあとから一つ選び、記号で答えなさい。  
 ・彼女の明るい笑顔は、まるで花が咲いたようだ。  
 (正答) ウ 動詞…咲い 形容詞…明るい 助動詞…ようだ

■ 結果

全体の通過率は44.0%であり、段階別に見ると R1=18.8%、R2=27.3%、R3=44.5%、R4=67.3%、R5=85.1%であった。どの段階でも他の基礎B・Cの設問と比べて通過率が低くなっている。誤答としては、「エ 動詞…咲いた 形容詞…明るい 助動詞…よう」が最も多く、39.5%となっている。無答率は0.8%である。

■ 考察

基礎Cという最も基礎的な知識の理解を問う設問であるにもかかわらず全体の通過率が50%を下回るという結果が示すのは、活用する自立語・付属語についての理解が不十分であるということである。前年度は活用する自立語を自分で抜き出す設問であったのに対して、今年度は選択肢が与えられていたため、無答率は低く抑えられた。前年度の全体の通過率が40.2%だったことを考えると、調査結果では若干上向いているものの、基礎的な言語についての知識が十分身に付いていないことが分かる。

誤答を見ると、品詞の種類はおおむね理解できているものの、動詞と助動詞を単語として正しく抜き出すことができていない。他の単語まで含めてしまったり、活用語尾が不足したりしているのである。本設問では、最後の文節「咲いたようだ」が「咲い(動詞) / た(助動詞) / ようだ(助動詞)」という複雑な構造になっているので、動詞「咲く」の活用を十分な理解がないと正答にたどり付けないということである。

■ 授業改善

- (1) 活用する自立語・付属語の種類や活用について、基礎的な事項を確実に理解させた上で、穴埋めや抜き出し等の練習問題に繰り返し取り組ませる。
- (2) 分かりやすい構造の文から複雑な構造をもつ文まで、様々な文を品詞分解し、文中で活用する自立語・付属語がどのように使われているかを考えさせる。このときペアやグループで競わせる活動も取り入れると学習意欲を喚起できる。
- (3) 品詞、活用の種類、活用形を指定して短文作りをさせる。生徒の作った文を品詞分解すると、口語文法をより身近に感じ、正しい文法を身に付けることができる。

【登場人物の言葉や行動の意味を理解すること 大問4 (2) 基礎C 55.4%】

「でもな、それでいいんだよ。」とありますが、この言葉の意味として最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。  
 (正答) ア カッコ悪いことはあっても、オトナの責任を果たして、一所懸命に生きているだけではないということ。

■ 結果

全体の通過率は55.4%であった。他の基礎B・Cの通過率と比較しても、R2以外の段階で下回っていた。誤答を見ると、「エ オトナはカッコいいところを見せたくて生きていくわけではないから、カッコ悪くても仕方がないということ。」が28.8%となっている。無答率は全体で1.4%であり、R3～5に無答はなかった。

■ 考察

選択肢のアとイには「一所懸命」というキーワードがあり、まず選択肢をこの二つに絞って考えさせたいというのが設問の意図である。しかし、誤答としてイを選んだ割合は10.5%であった

それに対して最も多かった誤答はエであり、その内容は設問の傍線部分の直後に書かれている部分である。このことから、問題文の傍線部分に着目はするものの、その前後にわたって表現されている登場人物の言葉や行動をまとめて考えることまではできていないことが分かる。この文章であれば、設問の言葉を読み出した「先生」の行動を総合的に考えないと、その言葉の意味を正確に理解することはできない。

■ 授業改善

- (1) 登場人物の行動を、人物ごとに抜き出させようとして、その人物の人物や心情、心の動きについて考えさせる。例えば、心情曲線を用いて心情の変化を表し、その曲線の根拠となる言葉を文章から抜き出して添えたりすることが有効である。
- (2) 登場人物の特定の言葉や行動の意味を考えると、前後の行動にも着目し、その経緯や、表面的な行動の奥にある登場人物の心情を、文章表現を根拠に読み取るようにさせる。
- (3) R1・2の生徒については、個別指導を行う。考えの根拠となる言葉や文を見付けさせる。重要語句にサイドラインを引かせたり、書き抜きをさせたりして、叙述から考えさせるようにする。また、効果的な授業形態を工夫する。一人一人の活動の場と活動量を増やすためにペア学習やグループ活動等をねらいに合わせて積極的に取り入れ、対話したり話し合ったりしながら互いに学び合えるようにする。

## 4 総括：次期学習指導要領を見据えた一貫性のある国語教育

- 次期学習指導要領においては、資質・能力の三つの柱として、生きて働く「知識・技能」、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」が示された。国語科では、これら柱の下に整理された「言葉の見方・考え方」を中核とする資質・能力の【系統性】を構造的に理解し、義務教育9年間を俯瞰した学習指導が求められる。
- また、校種を超えた【協働】の下、言語活動の【連続性】を系統性に基づいて確保し、一連の学習過程をスパイラルに繰り返すことが必要になる。
- 加えて、他教科等と連携して全ての学習の基盤となる言語能力を向上させるため、カリキュラム・マネジメントの観点から国語科が中心的役割を担う必要がある。

表 現行学習指導要領に規定される「読むこと」の「自分の考えの形成及び交流」に係る指導事項の系統性 ※小学校第5・6学年のみ「文学的文章の解釈」を合わせて記載

| 小学校                      |   |  | 中学校                  |                                      |                                 |
|--------------------------|---|--|----------------------|--------------------------------------|---------------------------------|
| 第1・2学年                   | 第3・4学年                                  | 第5・6学年                                 | 第1学年                 | 第2学年                                 | 第3学年                            |
| 大事な言葉や文を書き抜く             | 目的や必要に応じて文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章の引用したりする |  |                      |                                      |                                 |
|                          |   | 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉え<br>優れた叙述について | 文章の構成や展開、表現の特徴について   | 文章の構成や展開、表現の仕方について<br>根拠を明確にして       | 文章を読み比べるなどして<br>構成や展開、表現の仕方について |
|                          |   | 自分の考えをまとめる                             | 自分の考えをもつ             | 自分の考えをまとめる                           | 評価する                            |
| 文章の内容と                   |   |  | 文章に表れているものの見方や考え方を捉え | 文章に表れているものの見方や考え方について<br>知識や体験と関連付けて | 人間、社会、自然などについて<br>考え            |
| 自分の経験とを結び付けて自分の思いや考えをまとめ | 文章を読んで考えたことを                            | 本や文章を読んで考えたことを                         |                      |                                      |                                 |
| 発表し合う                    | 発表し合い<br>一人一人の感じ方について違いのあることに気付く        | 発表し合い<br>自分の考えを広げたり深めたりする              | 自分のものの見方や考え方を広げる     | 自分の考えをもつ                             | 自分の意見をもつ                        |

- 国語科における授業改善は、教科書教材等の文章の内容を理解するだけではなく、目的に応じて必要な情報を得たり、互いの考えを交流したりしながらその意味を見いだしたりするなど、課題の発見と解決に向け対話によって学びを深めていく、アクティブ・ラーニングの視点での言語活動の充実や学習過程の改善が求められる。
- これらを踏まえると、重点課題として上に例示した「読むこと」における「自分の考えの形成及び交流」は、次期学習指導要領に向け、より一層の改善が必要である。平成28年度調査は作者が表現した意味や意図、効果を論理的に説明する力の育成につなげるため、文章中の表現の工夫や特徴に着目させる設問を系統的に取り上げた。児童・生徒が、叙述の中の重要な語句を手掛かりに文章を解釈し、交流することによってものの見方や考え方を広げられようすることが求められる。そのため授業者は、児童・生徒の言葉に対する感度を高め、交流する必要感をもたせる学習課題の設定を意図的に工夫する必要があり、このことが次期学習指導要領の示す内容の実現につながっている。